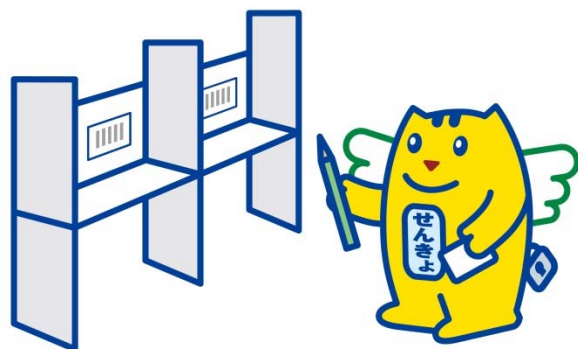


主権者教育のための参加型学習教材集



参加型学習教材研究会

2017 年 3 月

はじめに

選挙は、民主政治の基盤をなすもので、選挙が公正に行われなければその健全な発達を期することはできません。このことは、国民一人ひとりが、政治や選挙に十分な関心を持ち、候補者の人物や政見、政党の政策を判断できる目を持ち、自分の一票を進んで投票することをもってはじめて達成できるものです。そのためには、選挙時だけでなく常日頃からあらゆる機会を通じて、政治・選挙に関する国民の意識の醸成、向上を図っていくことが重要です。公職選挙法第6条は、総務大臣及び選挙管理委員会は「選挙が公明かつ適正に行われるように常にあらゆる機会を通じて選挙人の政治常識の向上に努めなければならない」と規定し、「常時啓発」を国及び選挙管理委員会の責務としています。ただ、このような大きな任務は、総務省と選挙管理委員会だけで果たせるものではないので、他の機関や明るい選挙推進協議会などの民間団体の協力を得て進められています。総務省は平成23年、時代に即した常時啓発のあり方を探るために「常時啓発事業のあり方等研究会」を設置し、同年12月に研究会の最終報告書が提出されました。最終報告書は、これからの常時啓発の方向として「主権者教育」、すなわち「あらゆる世代を通じて、社会に参加し、自ら考え、自ら判断する主権者を作ること」を提唱し、その一環として、「参加型学習」の必要性を指摘しています。

この教材事例集は主として成人を対象に、主権者教育に資する参加型学習の教材を提供するものですが、大学生、高校生、中学生にも広く活用いただける内容です。平成24年度、25年度、27年度に作成したものをベースに、内容、目的等分けて再編集し、情報を追加したものです。

平成29年3月

目次

はじめに	2 頁
目次	3 頁
1 参加型学習のすすめ	4 頁
(1)参加型学習とは	
(2)主権者教育における参加型学習の必要性	
2 参加型学習の手法	7 頁
ブレインストーミング、KJ法、特性要因図法など	
3 教材	
教材の概要	18 頁
教材1「有権者レーダーをつくろう！」	20 頁
教材2「まちに郊外型大型スーパーがやってくる」	28 頁
教材3「A村村長選挙の選挙公報づくり」	43 頁
教材4「暮らしを任せられる政党を見つけよう」	55 頁
教材5「自分たちで選挙の仕組みを変えてみよう」	71 頁
教材6「ニュース番組を使ったメディアリテラシーワークショップ」	79 頁
教材7「法教育の視点からルール作り」	90 頁
4 参加型学習教材の利用にあたって	107 頁
教材執筆者の紹介	109 頁

1 参加型学習のすすめ

(1)参加型学習とは

研修会、勉強会などで用いられる学習形態には、講義型学習の他に、参加型学習という方法があります。従来行われてきた講義型学習は、課題に関する知識を増やし、一度に多くの人が学べることなどのメリットがありますが、一方通行の知識伝達型学習です。また、聞いただけで満足してしまい、課題解決のための行動にまではつながりにくい面があると言われています。

参加型学習は、学習者が学習過程に参加することを促す学習手法と捉えられています。「教える・教えられる」という関係で学ぶのではなく、学習者が積極的に他の学習者の意見や発想から学び、異なる知識や経験を相互に発信して、学習が進められます。参加型学習には、参加型社会を創造することを目指す学習という面もあると言われています。学習者が現在または将来の課題に気づき、理解し、問題解決能力などを向上させ、学習後にはその実践として社会に参加する態度を養う学習です。

①類似の用語

参加型学習という語について、統一された定義はありません。平成 18 年に文部科学省が教育委員会、社会教育施設を対象に実施した調査によりますと、ワークショップ、体験型学習、参加体験型学習、参加型体験学習等々と、さまざまな名称が使われています。また、大学においては以前から導入されてきたアクティブラーニング(A L)の、高校での取り組みが本格化してきました。このA Lは、参加型学習とほぼ同義語として捉えられています。

②具体的な手法

参加者が積極的に参加できるように、疑似体験をさせたり、ゲーム的要素を入れるなど様々な工夫があります。具体にはブレインストーミング、K J 法、ランキング、ロールプレイ、ディベート、フォトランゲージ、ゲーム、シミュレーション、ジグソー法などがあります。ひとつひとつの手法をアクティビティと呼ぶことが多いようです。模擬選挙や話し合い学習の手法であるグループ討議、パネルディスカッション、ワールドカフェなども範疇に入れてよいでしょう。

学習冒頭に行うアイスブレイク(氷を砕く)も重要な要素です。「これから

何をするのだろう」と緊張している参加者の気持ちをほぐすために、他の参加者と気軽に言葉を交わせるための雰囲気づくりです。いくつかの手法を「2 参加型学習の手法」でご紹介します。

③学習プログラム

学習プログラムは、参加者、目的などによって、いくつかのアクティビティを組み合わせることで企画します。参加型学習の効果として、学習者間の交流・コミュニケーションがうまく進められ、結果として学習者や集団の変容や協働が促進されることがあげられます。そのためには、参加者の意識の流れに沿ってプログラムを構成することが大切です。また、プログラムの最後には、学習で得られた気づきや知識を確認し、それを今後を活用していくための整理をする場として、ふりかえりの時間を設けることが必須です。

プログラムを企画するときに注意することとして、参加しやすくするためとはいえ、疑似体験やゲーム的要素に偏りすぎないようにしなければなりません。また、参加者の課題に対する知識の内容や量に違いがありすぎると、例えば豊富な人がその知識だけで話し合いをリードしたり、例えば知識を持っている人が少ないと学びが深まらないなどの不都合が生じます。講義のような体系的な知識の提供と参加型学習の良さを組み合わせることが大事です。

学習の企画、進行はファシリテーターが務めることが多いようです。「促進者」と訳され、テーマの内容を深めたり、広げたりしながら進めます。その役割は学習活動を促進、活性化させることであって、指導の名の下に内容をコントロールすることではありません。

学習プログラムは、目的、テーマ別に数多ありますが、「4 教材」において政治、選挙をテーマとする8つの教材をご紹介します。

(2)主権者教育における参加型学習の必要性

総務省が設けた「常時啓発事業のあり方等研究会(平成23年)」は、これからの常時啓発として主権者教育を提唱しました。主権者教育とは、子どもから高齢者まであらゆる世代を通じて、社会に参加し、自ら考え、自ら判断する自立した主権者を育てるものです。自立した主権者とは、政治的・社会的に対立している問題を判

断し、意思決定していく政治的リテラシーを身につけていることです。投票義務感の強い高齢者も、さらに政治的リテラシーを高めていくことが重要であり、常に学び続けることが求められています。

例えば投票立会人など、実際に社会の諸活動に参加し、体験することで、社会の一員としての自覚が高まり、さらに加えて、研修会、勉強会などにおいて、情報を収集し、的確に読み解き、考察し、判断する訓練を受けることが必要です。子どもに対しては、学校教育において模擬選挙などを取り入れた参加型学習が増えてきましたが、大人や高齢者の学習については政治や選挙をテーマとする従来型の講義手法が多く見受けられるので、参加型学習への取り組みが求められます。

平成 28 年 7 月に、選挙権年齢が 18 歳以上に引き下げられてから初めての国政選挙として参議院議員通常選挙が実施されました。総務省は 29 年に「主権者教育の推進に関する有識者会議」を設け、主権者教育の現状と課題、更なる推進策を検討しました。学校における主権者教育の取組と課題として、「高校生に対する教育が重点的に行われたが、その内容は、知識学習や体験学習に重点が置かれ、十分に議論し、意思決定する取組は多くなかった」としています。そのうえで主権者教育の考えられる方向性として、「身近な問題から社会問題まで、年代や環境に応じた題材により、考える力、判断する力、行動していく力を醸成する多様な取組が求められる」としています。まさにこの教材集で紹介しているような参加型学習が求められています。

従来市町村における明るい選挙推進運動の常時啓発事業の中核に、身の回りの政治・社会問題をテーマに行う「話し合い学習」が位置づけられてきました。講義式ではない少人数による参加型学習であり、今後も政治的リテラシーを養成する手法として活用すべきでしょう。話し合い学習は、主権者教育においても重視されています。総務省と文部科学省が 27 年度から全高校生に配布している主権者教育副教材「日本の未来は私たちが拓く」においても、その手法が紹介されています。

2 参加型学習の手法

参加型学習において一般的に使われている手法(アクティビティ)を、いくつかご紹介します。思考ツールとして紹介されることもあります。

ブレインストーミング

特定のテーマをめぐって、既成概念にとらわれずに自由にアイデアを出し合い、問題を創造的に解決するための討議方法です。だいたい 10 人以下のグループで行い、一人では考えつかないような問題解決の糸口や新しいアイデアの発想につながります。グループの一体感が強くなる効果もあります。

ブレインストーミングは、1938 年(昭和 13 年)頃、アメリカの広告代理店 BBDO 社の副社長であったアレックス・F・オズボーンが考案しました。「ブレイン(脳)で問題にストーム(殺到)する」という意味合いから名づけられ、今日では、最も広く知られた創造的思考法の一つとなっています。

① 4つのルール

ブレインストーミングの本領は、自由奔放にアイデアを出し合うところにあります。それを実現するために 4 つのルールが決められています。

自由な発想 どんなに変な思いつきだと感じても、思いついたままを率直に出すことが大切です。自分の思いつきに反省を加えることは禁物です。

質より量 何でも良いから、次々と思いついたことを出すことが大切です。理屈抜きでたくさん出しましょう。

批判厳禁 他の人の思いつきに対しても、良し悪し、可能・不可能という批判的な発言は一切しないでください。

連想 他の人の思いつきでも、遠慮することなく、それを基にして自分の思いつきを発展させて出すことが大切です。

②ブレインストーミングの効果

- ・ 特定の問題に対して、その解決策を考えられます。
- ・ 参加者の創造的な問題解決能力が開発されます。

③発想のための予備練習

出そうと思ってもなかなか出てこないのがアイデアというものですが、アイデアを出しやすくするためのコツのようなものがあります。

まず頭の中を柔らかくしましょう。なごやかな雰囲気の中で、固くならず、肩の力を抜いて、リラックスしましょう。そして、質より量と、気軽に思いつきをどんどん出していくようにします。

では実際のテーマでブレインストーミングを始める前に、練習をしましょう。練習には身近なテーマを設定してみてください。10 でも 20 でも、思いつくままメモを書き出してみましょう。

➡例えば

「なぜおはようございますと挨拶するのか」

「まちを活性化するにはどうすればいいか」

「地球温暖化を防ぐにはどうすればいいか」

④ブレインストーミングの進め方

準備するものは、付箋紙、サインペン、模造紙などです。

グループに分かれ、それぞれに司会、記録係などを決めます。

以下のような手順で進めます。

ア 実施方法の説明とテーマの設定

ブレインストーミングの目的と進め方を説明します。

話し合うテーマを設定します。

イ アイデア、意見の出し合い

4つのルールを守って、アイデア、意見を出し合います。

各自が付箋紙に記入したり、記録係が模造紙に書き出します。

1枚の付箋紙には1つのアイデアを具体的に書きます。

グループ全員が読めるように、サインペンなどで大きめに書きます。

参加者がすぐにアイデア、意見を発表するのが難しいときは、はじめに少し時間を取って、付箋紙に書き出してからそれを発表していく方法もあります。

エ グループ討議

出されたアイデアが、テーマや目的に対して一面的であったり、偏ったものになっていないか、全体を眺めることが大切です。

意見を並べたり、並び替えたり、組み合わせたりして新しい情報としてまとめ、アイデアを掲示してみます。

付箋紙の分類、まとめる作業はグループ全員でやります。特定の人がどんどん進めると進行は早いのですが、その人の考え方でまとめられてしまうことになってしまいます。

オ グループ討議の結果発表

各グループで発表資料などを模造紙などにまとめ、全員に見えるようにホワイトボードなどを使って、それを掲示します。

K J 法

様々な知識や経験から発想した断片的な情報を整理・統合して、創造的なアイデアを生み出し、問題解決の糸口を探っていく方法です。フィールドワークで得た多くのデータを分類するのにも使います。

文化人類学者の川喜田二郎氏が考え出したもので、川喜田氏の氏名の頭文字をとってK J 法(ケージェー法)と名づけられました。

K J 法では、ブレインストーミングの要領で出されたアイデアや意見などを1枚ずつ付箋紙に書き込み、それらの付箋紙の中から近い感じのするもの同士を集めてグループ化し、図解していきます。そして全体を見ながら検討し、話し合います。こうした作業から思わぬ発想が生まれ、解決に役立つヒントやひらめきが出てきます。

① K J 法の進め方

準備するものは、付箋紙、サインペン、模造紙などです。

以下のような手順で進めます。

ア 実施方法の説明とテーマの設定

K J 法の目的と進め方を説明します。

話し合うテーマを設定します。

イ アイデア、意見の出し合い

ブレインストーミングの要領で、アイデア、意見を付箋紙に書き出します。

ウ 分類・集約

付箋紙を書いた本人が意見を読み上げ、簡単に説明します。参加者は内容が近い感じの付箋紙ごとに分類して、小グループにまとめます。付箋紙を無理にどこかのグループに入れることはしません。

エ 見出しづくり

内容ごとに別けられた小グループに見出し(タイトル)を付けます。

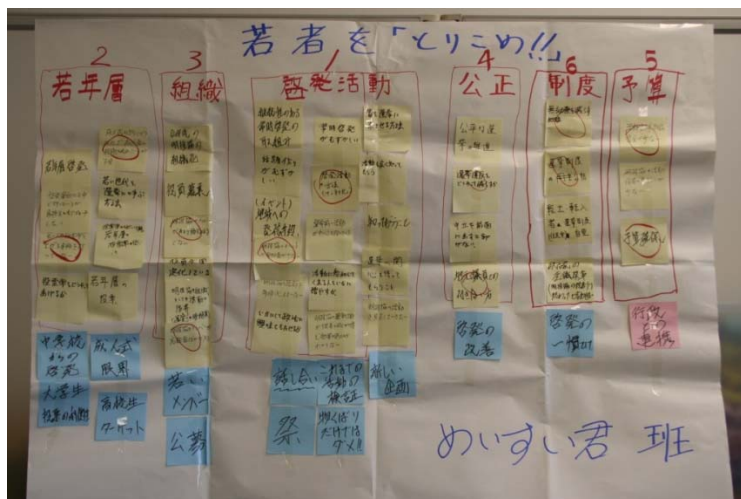
オ 図解化

関連する小グループをまとめて中グループをつくり、さらに中グループをまとめて大グループをと、次々にグループ化していきます。

カ 解決策

全体をじっくり眺めて、グループ間の関係性を読み取り、それを文章化するなどして、問題の解決法を導き出していきます。時々議論を整理して対立点を明確にし、焦点を絞ると理解が深まります。

付箋紙は情報を自由に動かせ、書き足せるので試行錯誤を反映させることができます。



特性要因図法

調査・分析、問題点の発見・解決の基本的な方法で、問題(=特性)の主だった原因(=要因)を明らかにする手法です。問題とその原因との関係を魚の骨のような図解にして分析していきます。「フィッシュ・ボーン」とも呼ばれています。

特性要因図法の進め方

準備するものは、付箋紙、サインペン、模造紙などです。

以下のような手順で進めます。

ア 実施方法の説明

特性要因図法の目的と進め方を説明します。

話し合うテーマを設定します。

イ 原因の究明とカードづくり

問題の原因について、ブレインストーミングの要領で意見をたくさん出して、付箋紙に書きます。

ウ 特性要因図の作成

背骨となる太い矢印を模造紙の中央に書き、討議のテーマを記入します。

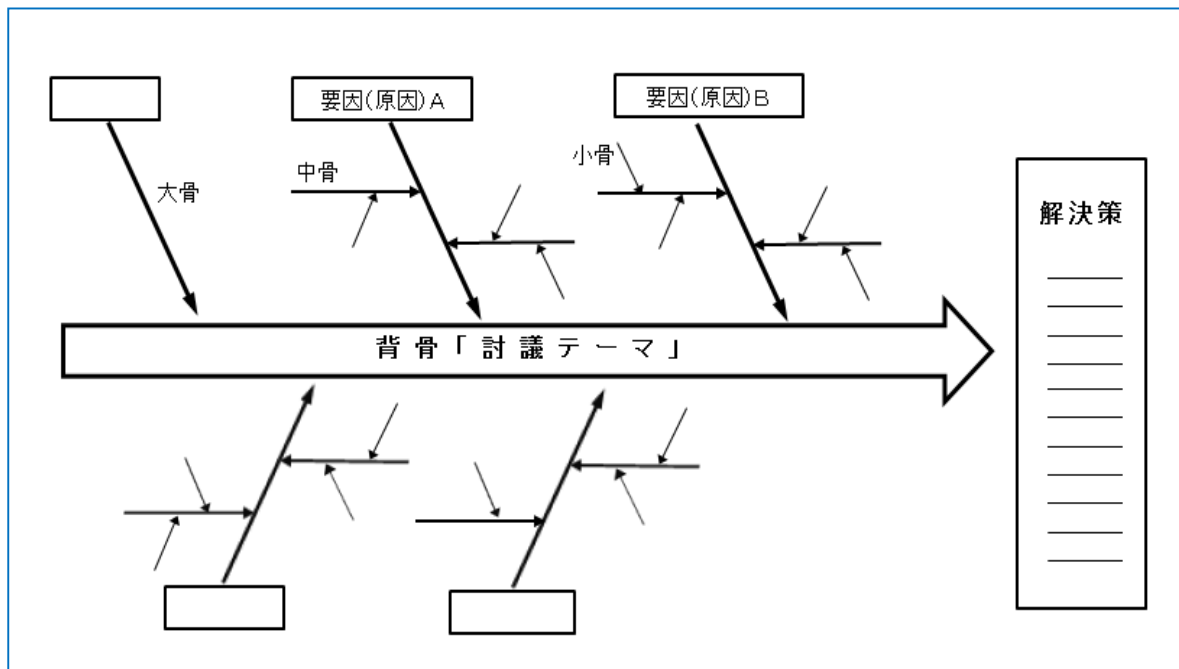
各人の付箋紙(小骨)を、同じ内容の付箋紙ごとに分類し、それぞれに見出しをつけます(中骨、大骨)。次いで、背骨に向けて矢印で線を引き、それに沿って分類した付箋紙を貼り、見出しを書き込みます。

エ 解決策の話し合い

原因としてまとめられたいくつかの見出しに対する解決策を、ブレインストーミングを使ってたくさん出し、話し合います。解決策の見出しを背骨の右側に記入します。

オ 討議結果の発表

各グループで出された原因と、それに対する具体的な解決策を発表します。



②解決策の分類

解決策の実行の可能性によって分類すると、より具体的に解決策が見いだせます。

ア ○△□×で分ける

- | | | | |
|--------------|----|---------------|----|
| ・ すぐに実行できるもの | →○ | ・ 修正して実行に移すもの | →△ |
| ・ 検討を要するもの | →□ | ・ 実行しないもの | →× |

イ 色で分ける

- | | | | |
|--------------|-------|---------------|------|
| ・ すぐに実行できるもの | → ピンク | ・ 修正して実行に移すもの | → 黄色 |
|--------------|-------|---------------|------|

ランキング

テーマに関するいくつかの選択肢を、良いと思うものから順に並べる順位づけを、個人やグループで行うものです。優先順位を考えることで、考えを整理したり、深めたりする手法です。ダイヤモンドランキングという手法もあります。

①ランキングの進め方

準備する物は付箋紙、模造紙などです。

選択肢は、事前に設定されたもの、ランキングの前段で参加者がブレインストーミングなどで抽出したものなどを、付箋紙などに書き出しておいて使います。

以下のような手順で進めます。

ア 実施方法の説明とテーマの設定

イ 個人ワーク

まず各個人が、自分なりの順位づけを行います。

ウ グループワーク

個人の順位づけが終わったら、グループの中で順位づけの理由を説明しながら発表し合い、共有します。さらに、グループとしての順位づけを行うために話し合いを続けることもあります。

②ダイヤモンドランキング

ランキングを、ダイヤモンドシートと呼ぶ、5つの段階、9つに分割されたシートの枠内で行うものです。最も重要だと考える選択肢を1つ選んで最上位に置き、最も重要でないと考える選択肢を1つ選んで最下位に置き、あとの選択肢は中間3段階7つのスペースに置きます。

ワールドカフェ

少人数による会話を、メンバーを入れ替えて何度か行うことにより、擬似的に参加者全員と話し合っているような効果が得られる手法です。カフェのような気の張らない場所での自由な会話を楽しもうという考え方です。

ワールドカフェの進め方

準備するのは模造紙、サインペンなどです。

以下のような手順で進めます。

ア 4人で1つのテーブルに座ります。

ワールドカフェの目的と進め方を説明します。

テーマを設定します。

イ 第1ラウンド

各テーブルで共通のテーマについて話し合います。

1回の話し合い(ラウンド)は20分程度です。

テーブルに敷かれた模造紙に、話し合いの中で気づいたことを“落書き”のように書いていきます。キーワードでも絵でも様式は問いません。

各テーブルでホストを決め、その人を残して他の人は“旅人”となって別々のテーブルに移動します。

ウ 第2ラウンド

次のラウンドで、ホスト、旅人共に、前のラウンドでの話を簡単に共有します。

その後、更に話を進め、模造紙に気づいたことを書き込みます。

エ 第3ラウンド

次のラウンドは、最初のテーブルに戻り、各テーブルで得られた発見や気づきを共有し、更に話し合いを進めます。

最後に、気づいたことや学んだことなどのキーワードを各自付箋紙に書いて、模造紙に貼り、共有して終了です。簡単に各グループから発表してもらうこともあります。

アイスブレイク(自己紹介)

アイスブレイクは、年齢や立場も様々な見知らぬ間柄である研修参加者の緊張感を解きほぐし、互いにコミュニケーションをとりながら恥ずかしがらずに積極的に発言することができるような雰囲気を作り、研修の効果を高めていくための大切なポイントです。方法はいろいろありますので、参加者の年齢構成などの背景をある程度把握した上で、適切な方法を選択して実施します。

例えば自己紹介の方法としてこんなやり方があります。参加者にA4用紙を配ります。2回折って開くと4つの書くゾーンができるので、1つのゾーンは名前、1つのゾーンは趣味、1つのゾーンはこのワークに望むこと、1つのゾーンは自分の大切にしていることを、それぞれ1行くらいで大きく書く。それを見せ合いながら、自己紹介を行います。

ゾーンに書く内容には、ニックネーム、最近あった良いことと悪いこと、日頃のボランティア活動の紹介、自分が所属している組織の中の自分の役割と苦労していることなど、いろいろあります。「自分が所属している組織」は、必ずしも仕事上の事柄でなくても構いません。所属している組織のうち何でも差し支えないもの、例えば家族の中のゴミ出し係、自治会の広報委員などを紹介してもらいます。

参加者をグループに分ける方法として、参加者が背の高さ順に大きな一つの円になって、順番に番号を言っていく方法や、誕生日の早い順に並んでタイムラインを作って番号を振っていくやり方などもあります。

そのほか、選挙クイズやジャンケンゲーム、川柳、政治・選挙に関わる最新ニュース(新聞やテレビの記事、各地の出来事)等を、予定時間や研修参加者の年齢、人数、開催地域等を考慮して用意します。様々なアイスブレイクの手法が紹介されている書籍が出版されているので、参考にしてください。

なお、アイスブレイクにことさら時間をかけすぎないように配慮することも大切です。また、初対面の参加者が多い時や外部講師によるプログラムの場合は有効ですが、連続講座や学校教育のように、すでにある程度の人間関係が築かれている場合はあまり必要ないかもしれません。

話し合いを見える化する道具(ツール)

話し合いの目的、テーマ、進め方、ルール、時間などを共有し、常に意識するためにホワイトボード、ミニホワイトボード、模造紙などを使います。

途中経過をチェックすると、限られた時間の中での進行がよりスムーズになり、話がそれたときにも軌道修正がしやすくなります。発言者の意図が、聞く人の思い込みなどにより違った解釈をされることがありますが、意見を書き出していると、その場で修正されます。発言の内容がよく理解できないときは、言い換えや具体例を求めます。時々議論を整理して対立点を明確にすると理解が深まります。

ホワイトボードは書き直しが簡単なので、試行錯誤を反映させることができます。

3 教材

各教材の概要

各教材の学習目的は、教材1は政策と自分との関係性を意識させるもの、教材2は多様な意見があることを知るもの、教材3は地域の課題を考えるもの、教材4は政策判断の方法を学ぶもの、教材5は選挙の目的を考えるもの、教材6はメディアリテラシーを学ぶもの、教材7は合意形成を学ぶものです。

教材1「有権者レーダーをつくろう！」

この教材は、教材2、教材3、教材4の前段的な位置づけのものです。「政策メガネを使おう」「政策マップをつくろう」「有権者ジャーニーマップをつくろう」「有権者レーダーをつくろう」の一連のワークを通じて、身の回りのいろいろなことがすなわち政策課題であり、政治と結びついていることに気づき、個々の政策には様々な人・モノ・でき事が関わっていることを理解し、政党や政策を比較するときに自分に関わりのある政策分野を考え、自分が大切にしたい軸を見つけ、マニフェストを主体的に読み比べることができるようにするものです。

教材2「まちに郊外型大型スーパーがやってくる」

この教材は、大型スーパーの進出をめぐるまちの将来像をどう描くかを考えるものです。社会的問題を考える時に、自分だけでなく社会の様々な立場の人を意識するために、役割カードを使ったロールプレイの手法を用いています。社会的問題の多様性・複雑性について実感を持って捉えることができます。

教材3「A村村長選挙の選挙公報づくり」

この教材は、架空のA村の人口・世帯、産業、基盤整備、村民所得・村財政などに関する解説文を読んで、村の特徴や課題等を把握し、そのうえでグループの代表が村長選挙に立候補するための政策を策定し、選挙公報として発表し合うという設定です。課題について討論し合う過程で生みだされるアイデア豊かな政策提案を通して、政治的判断力や政治・選挙への参加意欲が向上することをねらいとしています。

教材4「暮らしを任せられる政党を見つけよう」

この教材は、「暮らし」を題材に政党をつくり、参加者それぞれに与えられた役割に即して議論、討論することによって政治的教養を深め、選挙時の投票選択の基準の一つを考える機会を提供するものです。政党をつくるというプロセスを通じて、社会の課題と政府の関わりを考えます。シングルイシューの設定で提示された政策課題を、ロールプレイ形式で考え、投票先を選択することを学びます。

教材5「自分たちで選挙の仕組みを変えてみよう」

この教材は、選挙で決めるべきこととそうでないことを、グループ討議を通して区別し、よりよい選挙の仕組みを考えます。選挙は与えられた仕組みではなく、自ら積極的に活用して政治に参加する手段であると捉え、選挙の目的と機能を学びます。

教材6「ニュース番組を使ったメディアリテラシーワークショップ」

この教材は、実際に放映されたテレビのニュース番組の映像を使って、私たちがメディア社会を生きていることに気づいてメディアについて学ぶ必要性を理解すること、メディアについて自律的に考えるための手がかりについて理解すること、ワークショップという学びの場でメディア分析を経験して基本概念を理解することが目的です。

教材7「法教育の視点からルール作り」

この教材は、「法教育」の教材で、法律専門家でない一般の人々が、法や司法制度とその基礎になっている価値を理解し、法的なものの考え方を身につけるためのものです。学習対象者が身近に感じられる紛争(トラブル)状況に対して、それを解決するためのルールをグループで作ります。学習者はそれぞれ合理的な意見を持ち、学習者間の討論を経た合意形成に基づいて紛争を解決することが必要となり、建設的な批判能力の育成にもつながります。

教材 1 有権者レーダーをつくろう！

～政策を読み解く「自分の軸」探し～

マニフェストってどう読めばいいのだろう。政党や政策を比較するとき、自分に関わりのある政策分野を考えることや自分が大切にしたい軸を見つけ、マニフェストを主体的に読み比べられるようになろう！というものです。自分なりの“こうなって欲しい日本の未来”を考えた上でマニフェストを読み解き、政治を自分ごとにするきっかけとする、地域にフォーカスしたものです。

1 学習の進め方

全体の流れと所要時間

- ・アイスブレイク (10分)
- ・政策メガネをかけてみよう (30分)
- ・政策マップをつくろう！ (40分)
- ・有権者ジャーニーマップをつくろう！ (30分)
- ・有権者レーダーをつくろう！ (30分)
- ・まとめ (20分) 計 2 時間 40 分

※すべてをいっぺんに実施しなくてもかまいません。

2 具体的な手順

(1)アイスブレイク(10分)

(2)政策メガネをかけてみよう(30分)

“政策メガネ”をかけて、地域のいろいろな場面を撮影した写真を見ながら、身の回りの生活に潜んでいる政策を探し出します。ねらいは、身の周りには「政策」があふれているので、身の周りから出発して「政策」を網羅的に捉えることです。

①準備する物

A 4 用紙、マジックペン、プロジェクター、スクリーン、名札、小付箋紙、付箋紙(黄色)、模造紙、駅前など街を映した写真数点(A 4 判に拡大)。

②進め方

ア 身の周りの「政策」(15 分)

- ・地域のいろいろな場面を撮影した写真を提示します。写真を見て「これって政策と関わりそう」という人・モノ・でき事をたくさん見つけて、小付箋紙を写真上に貼っていきます。(5 分)
- ・各グループが見つけた政策を発表し、全体で共有します。多くの政策を出せたグループを勝ちとするなどゲーム性を持たせます。(10 分)



この写真であれば、自転車が歩道からはみ出て道路に止められているから「道路の整備」「放置自転車対策」といった感じで付箋紙に書き出します。

イ 政策あれこれ(15 分)

- ・個人ワークで、アの「身の周りの「政策」」ワークを参考にしながら、世の中に存在する「政策」を、思いつくかぎり付箋紙に書き出します。道路整備、景観整備、公園整備、公共事業、教育、大学生、財政、福祉、教育といった大括りなもの、消費税増税、健康保険制度といった具体的なものも可です。参考になる本、行政の長期計画やホームページも参照します。(5 分)
- ・グループワークで、書き出したものをグループ内で共有し、大カテゴリに○をつけながら、グルーピングします。(10 分)

ウ 発表

各グループで見つけた政策を 1 つずつ発表し、全体で共有します。出された政策について、実は国の政治と地域の政治の分類があることを示します。

エ ふりかえり

政策は身の周りにたくさんあること、国と地域の政治の分類を再確認します。

③注意すること

- ア 個人ワークが行き詰っているようであれば、流れでグループワークに移行し

て、グループで考えます。

イ グルーピングの際は、政策分野(大カテゴリ)なのか政策(小カテゴリ)なのかを区別します。

ウ 自分の関心のある政策を洗い出すとともに、他の人が関心のある政策を知り、「こんな政策もあるんだ」という気づきを得ることを目標にします。

(3)政策マップをつくろう！(40 分)

誰のための・何のための政策かを理解するために、政策マップをつくって政策と人・モノ・でき事を関連づけます。ねらいは、政策のステークホルダーを考えて政策についての理解を深めることと、自分に関連すること以外にも、様々な人・モノ・でき事が関わっていることを実感することです。

①準備する物

付箋紙(ピンク色)、模造紙、政策レクチャー資料

②進め方

ア 誰のため・何のための「政策」？(35 分)

A (2)の「政策メガネ」で自分が出した政策の中から、一人一つを選択します。国の政治ではなく、地域の政治に関わるものを選びます。

B その政策に関係のある「人・モノ・でき事」を考え、思いつくだけ付箋紙に書き出します。個人ワーク(3 分)

※注意すること

・「人」に関しては、子ども、お年寄り、失業者、外国人…などを想定。

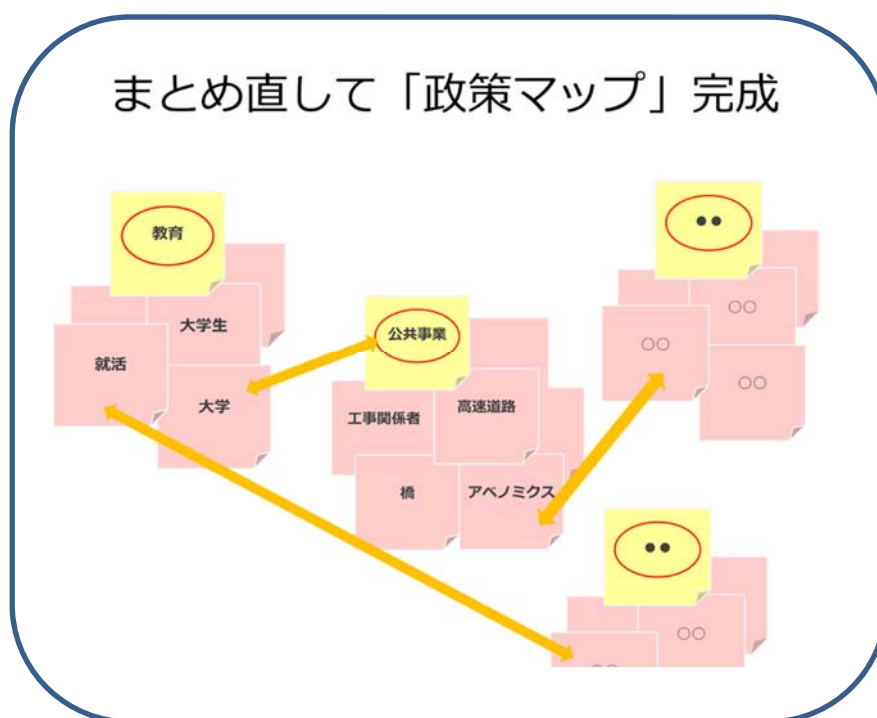
・「モノ」に関しては、道路、病院、公園といったインフラや、結婚、出産、退職といったイベントを想定。

C グループで共有し、模造紙上にグルーピングして「政策マップ」をつくりま
す。グループワーク(5 分)

D A、B、Cを2回繰り返します。(25 分)

E 似た政策、近い政策、関わる人・モノ・でき事が似ているなど、付箋紙を
まとめたり、線でつないで「政策マップ」をまとめ直します。(10 分)

まとめ直して「政策マップ」完成



イ 政策レクチャー(5分)

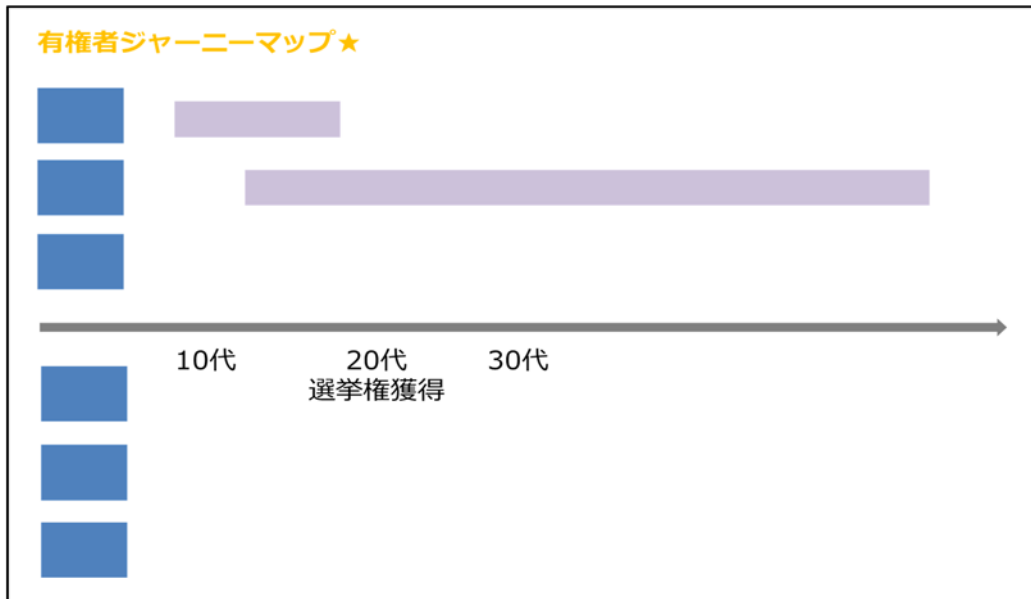
前半部のまとめとして、「身の周りの様々な人、モノ、でき事が関わっていること」「政策と政策分野について(大区分と小区分)」「だいたいの政策・政策分野(地方政治) 政策」について確認します。

政策	政策分野	政策	政策分野	政策	政策分野	政策	政策分野
福祉	結婚	教育	就学前	環境	ごみ	文化	芸術
	出産		小学生		公害		スポーツ
	子育て		中学生		エネルギー		地域活動
	高齢者		高校生	インフラ	道路・河川	経済	農業
	障がい者		高等教育		公共交通		工業
雇用			生涯学習		公共施設		商業
医療、保健、衛生		財政	地方税		ライフライン		観光業・サービス業
防災、都市計画		国際			IT		

※政策・政策分野の分け方は、研修会を実施する当該地域の自治体の分け方等を参考にします。

(4)有権者ジャーニーマップをつくろう！ (30 分)

「政策マップ」で理解したいろいろな政策が、どの年代に影響を及ぼすのかを図解します。ねらいは、自分や自分の身の周りの人々の人生と政策のつながりを捉えること、年齢、世代、ライフステージごとに、そして人によって各政策・政策分野との関係性が異なることやその面白さを知ること、いま自分に直接関係のある政策だけでなく、将来関係しそうな政策も分かることです。



①準備する物

模造紙、紙テープ(リボン)、自分の位置マーク(丸いシールなど)

②進め方

ア 模造紙(横置き)の左側縦軸に政策・政策分野を、横軸に年代を示します。

イ 政策・政策分野を8つ選び、書き込みます。(5 分)

医療、雇用、交通、教育、社会保障、自然環境、国際、防災・防犯、
観光、経済、公共施設・設備、コミュニティなど。

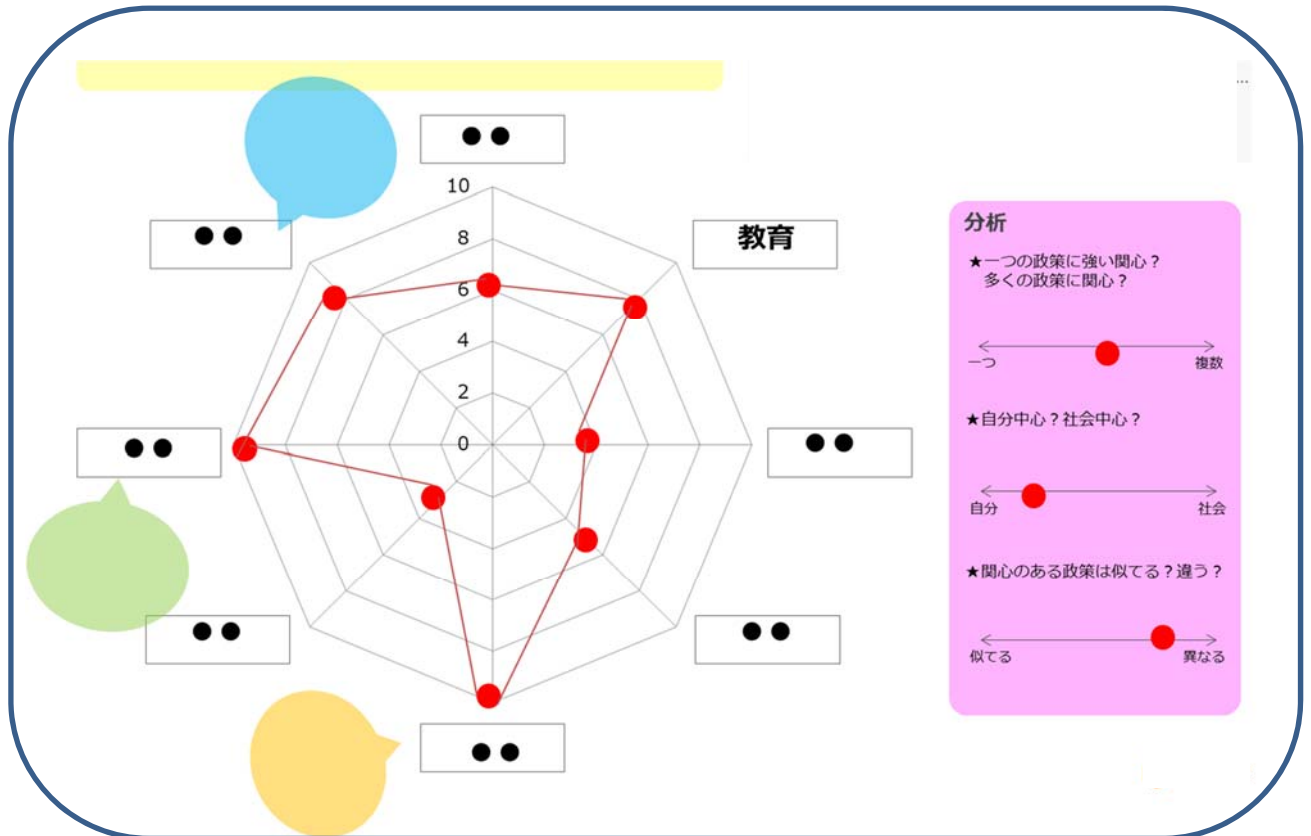
ウ それぞれの政策・政策分野が、人生のどの場面(年代)に関わってくるかを考えて、紙テープを貼ります。グループワーク(10 分)

エ 自分の位置を確認し、シールを貼るなどしてマーキングをします。その後、家族、友人など自分の身の周りの人の位置を確認します。個人ワーク(5 分)

オ 各グループで作成した有権者ジャーニーマップを発表し、ほかのグループの有権者ジャーニーマップも見て、全体で共有します。(10 分)

(5)有権者レーダーをつくろう！ (30 分)

有権者ジャーニーマップで抽出した政策のベスト3を選び、なぜそれが大事かを分析して、命名し文章化します。ねらいは、自分や自分の身の周りの人々との関連をヒントにして、投票の際の自分の軸を決めることです。



①準備する物

ワークシート1「有権者レーダー」(27 頁)

②進め方

ア 有権者ジャーニーマップで考えた政策を書き写します。

イ ジャーニーマップで考えた自分や自分の身の周りとの関連を考えつつ、それぞれの関心度を10段階で評価し、点を記入して線で結びます。

ウ 特に関心の高い3つの政策・政策分野について、その理由を考え(文章化)、付箋紙に書き出して貼ります。

エ 3つの軸で分析(自己評価)します。

- ・ 1つの政策に突出して関心があるかどうか
- ・ 自分中心か社会中心か
- ・ 政策のばらけ具合(ここで政策マップを活用) ここまで個人ワーク(15 分)

オ 「有権者レーダー」をグループ内で発表し、共有します。

互いに質問をし、その人の「有権者レーダー」に反映された価値観に迫りながら、グループの人がその人の「有権者レーダー」にタイトルをつけます。

グループワーク(15分)

③注意すること

ア もともとの関心、新たに気づいた関心を比較し、深め、投票の際の軸を「有権者レーダー」として定めます。

イ 他者に「有権者レーダー」のタイトルをつけてもらうことで、3つの軸に潜んでいる「政策を読み解くときの人生のテーマ」を浮き彫りにします。

(6)まとめ

「身の周りは政策だらけ！政治・政策と自分の関わり、政策と自分のライフステージの関係を確認し、政策を読み解く自分の軸をつくろう」

学んだことのおさらいとして、以下のことを確認します。(5分)

世の中には様々な政策があり、国・自治体によって異なる。知らないものがあれば、積極的に調べてみよう。

自分とその政策のつながりは、政策に関連する人・モノ・でき事を通して感じることができる。政策の良し悪しの判断に困ったら、政策を人・モノ・でき事の観点から分解してみよう。

今回つくった「有権者レーダー」を参考に、受け身にならずに政治を読み解いてほしい。まずは自分の視点から、慣れてきたら周りの人・社会全体の視点から。

投票に行きましょう。

有権者レーダー＝能動的有権者宣言！

政治を意識してみてください。

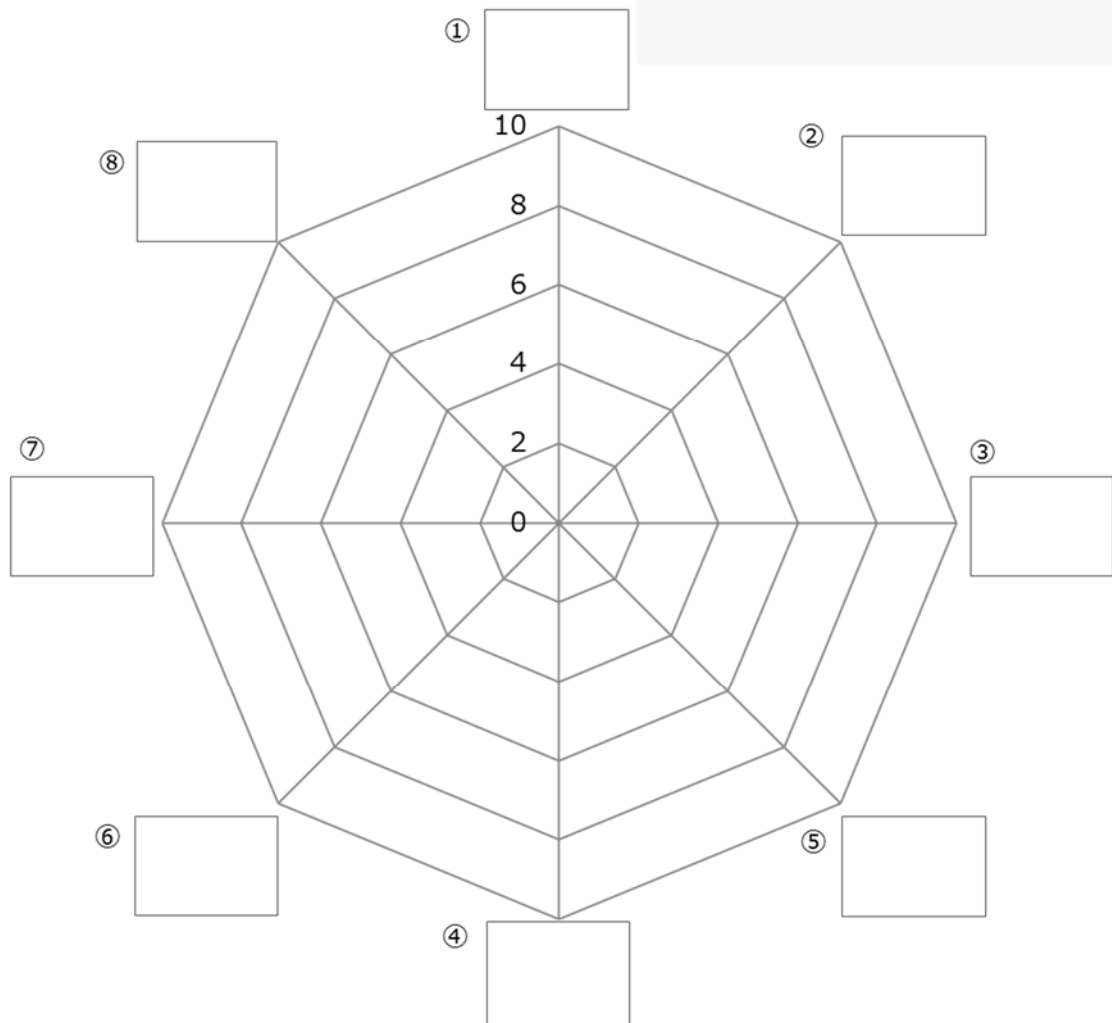
ワークシート1

有権者レーダー

レーダー名

【手順】

- ①ジャーニーマップで考えた政策を書きうつす
- ②関心度を10段階で評価し、点を記入→線で結ぶ
*ジャーニーマップで考えた、自分や自分の身の周りとの関連を考えつつ…
- ③とくに関心の高い政策ベスト3について、その理由を考え、言語化シールに記入し、貼る
- ④3つの軸で分析する
- ⑤ほかの人に名づけてもらう



分析

★一つの政策に強い関心？多くの政策に関心？

← 一つ → 複数

★自分中心？社会中心？

← 自分 → 社会

★関心のある政策は似てる？違う？

← 似てる → 異なる

教材 2「まちに郊外型大型スーパーがやってくる」

大型スーパー進出をめぐる、まちの将来像をどう描くかという比較的身近で実感をもって考えやすい社会問題を取り上げ、その問題をめぐる様々な立場の人々をロールプレイ的に登場させ、疑似的な議論を行う中で、様々な立場の組織や人々が関係している社会問題をどのように考えていけばよいのかについての考えを深める機会とします。

1 教材のねらい

社会では解決が求められる様々な社会的問題が存在しますが、様々な立場や背景を持つ人々の多様な利害関係が絡んで、解決は容易ではありません。また、社会的問題の解決策は、利害が絡むすべての人々に影響を及ぼすものでもあり、考えて議論しながら解決策を決定していく上では、自己の利益だけでなく他の立場の人々の利害にも考えを及ぼすことが社会では求められます。

この教材は、ロールプレイなどを通じて社会的問題の多様性・複雑性について実感をもって捉えることができるようにするとともに、その解決策が様々な人々に影響を及ぼすことに気づき、自分だけでなく社会の様々な立場の人々を意識しながら社会的問題を考えることが民主主義社会においてどのような意味を持つのかについても考えを深められればと思います。

また、社会的問題の背景の複雑性に改めて気づき、社会的問題の解決が絡む政治上の問題解決が様々な人々の要望や課題をもとに行われていることにも思いをはせることで、自らの要望や主張が社会に100%達成されなかったという問題解決の結果だけに注目して直ちに政治不信や無関心に陥るのではなく、なぜそのような解決内容に至ったのかという問題解決の過程(プロセス)にも目を向けることで、社会的問題が自分だけの問題ではなく、自分たちの問題であるということ意識し、政治への関心や参加意識の向上につながる事をねらいとしています。

2 学習の進め方

(1) ロールプレイとは

役割カードに設定された人になりきってもらい、疑似的な会議として実際に議論をします。基本的な立場は設定されていますが、台本は無いので、このような立場ならこのように考えてこのようなことを発言するだろうということを、その場で考えながら議論をします。

(2) 全体の流れと所要時間

- ・アイスブレイク
 - ・ロールプレイの説明
 - ・グループ分け①(役割別)
 - ・ロールプレイの準備(役割を説明したカードで、それぞれの立場を理解する)
 - ・社会的問題の把握(活気のないまちの現状、郊外型大型スーパーの誘致をめぐる問題)
 - ・グループ分け②
 - ・ロールプレイの展開(会議を開き、役割になりきって議論をします)
 - ・ロールプレイのふりかえり(議論を終えた後で、感想や意見などの交流)
- 計 4 ～ 7 時間程度

※途中を簡略化したり、ロールプレイ型からワークショップ型に切り替えたりすることで、3時間くらいまで縮めることは可能です。

(3) 展開の仕方(複数のやり方があります)

① パターン A

参加者全員がいくつかのグループに分かれてロールプレイを行います。

- ・メリット : 参加者全員の意識が高まる可能性が高いです。
- ・デメリット : ロールプレイが難しい参加者がいる可能性があります(どのような展開になるのかが読み切れないことがある)。

※複数グループが話し合いをするスペースの確保が課題となります。

②パターンB

参加者の一部がロールプレイを行い、あとの参加者はそれを傍聴するという会議の傍聴者の立場になってもらい、一通りのロールプレイによる会議メンバーの話し合いが終わった後に、フロア(傍聴席)からの質問という形で間接参加をしてもらいます。傍聴者役には、後で質問や意見を出しやすくすることをねらい、考えながら聞いてもらうためのワークシート 2-2「傍聴者用ワークシート」を用意します。

- ・メリット : ロールプレイが難しい方も参加しやすくなります。
- ・デメリット : 傍聴者の学習効果が薄くなる可能性があります。

※ロールプレイをする方と傍聴者になる方とをどのように分けるかが課題となります。

③パターンC

ロールプレイ型ではなく、ワークショップ型として行います。役割カードに基づいてそれぞれの立場になりきるのではなく、様々な立場の人々がいる中で、どのような解決をするのが最も妥当だと思うかを話し合い、グループで結論を出します。その後、各グループの発表をし、全体でふりかえりを行います。

- ・メリット : ロールプレイでのデメリットがおおむね解消できます。
- ・デメリット : 学習効果が薄くなる可能性があります。

(5)準備するもの

- ・資料 2-1「わたしたちのまちの現状と郊外型大型スーパーの誘致問題」 34 頁
- ・資料 2-2「役割カード」 35 頁
- ・資料 2-3「話し合いのルール」 38 頁
- ・ワークシート 2-1「参加者用ワークシート」 39 頁
- ・ワークシート 2-2「傍聴者用ワークシート」 41 頁
→展開の仕方・パターンBで使います
- ・模造紙、色マジック(8色ほどあるとよい)、付箋紙、全体用ホワイトボード

3 学習の手順(パターンA)

(1)アイスブレイク

(2)ロールプレイの説明

ロールプレイとはどのようなものを理解します。

(3)グループ分け①(役割別)

①年齢や職業、性別や居住地の状況等が多様になるように、設定した役割の数のグループを作ります。ふりわけは主催者側で決めても良いですし、最初のアイスブレイクで自動的に決まるようなゲームを行い、ここでその区分を発表する方法もあります。ここでもう一度アイスブレイクの時間を設け、ゲームなどを使って分ける方法もあります。グループができたら簡単に自己紹介をし、仮の進行係を決めます。

②各グループがどの役割になるかを発表します。参加者が選ぶと、自分たちがやりやすいということから自分の立場に近いものを選択しがちになり、多様な立場の人々が絡む複雑性に気づいてもらうという研修の効果が薄れてしまう可能性があるため、主催者側で決めます。

あるいは、くじ引きのような偶然性に任せた方法でその場で決める方法もあります。グループの代表者がくじを引くことで、主催者側によって一方的に決められてしまったという気持ちが、薄らぐ効果が期待できるかもしれません。

(4)ロールプレイの準備(役割の理解)

各グループで役割カード(資料2-2)をよく読んで、自分が演じる立場を理解します。基本的な質問などがあれば受けつけても良いですが、細かい質問には答えない方向で対応します。例えば「こういう場合はどう答えればよいのか」といった質問が出ますが、それも含めて考えて演じるのがロールプレイです。「カードは台本ではないので、その立場ならどのように考えて発言するかということを自分で考えて下さい」、といった趣旨のことを回答します。

(5)社会的問題の把握

資料 2-1「わたしたちのまちの現状と郊外型大型スーパーの誘致問題」を使い、まずは「人口・年齢・分布」「雇用・失業」「交通」「商業圏」等の分野別に、まちの現状を把握します。その上で、大型スーパーの誘致問題が持ち上がっていることを理解します。各役割グループで色々と考えられることを意見交換しましょう。

(6)グループ分け②

実際にロールプレイを行うグループに分かれます。なお、「(3)グループ分け①(役割別)」での自己紹介で、誕生日(年は避ける)も言ってもらい、誕生日順にグループ分けをするという方法があります。くじ引きでも良いです。

グループに分かれたら、それぞれにグループ名を単純に割り振った上で、各グループで進行係、記録係、発表者を決めます。進行係と記録係は、自分の役割を演じつつ、係もこなします。進行係は、役割カードの市役所担当者代表が行っても良いでしょう。記録係は2人で分担します。発表者は、各グループの話し合いが終わった後に全体会で発表します。

*「(3)グループ分け①(役割別)」の段階でグループに分けてしまい、「(4)役割の理解」を、参加者各自に単独で行ってもらうパターンもあります。同じ立場でも考えにばらつきが出て、グループ毎の議論が多様化することが期待できます。しかし、同じ立場同士での事前の話し合いが無くなるため、各個人の負担感が増すことが考えられます。

(7)ロールプレイ 各グループでそれぞれ議論を行う

資料 2-3「話し合いのルール」を全員で理解しておきます。最初は意見が出にくいと思われるので、進行係が発言をうながしつつ、議論を進めます。各参加者が自分に割り振られた立場ならどのような事を考え、どのような意見表明や質問などを行うかを考え、積極的に発言します。記録係は、他の記録係が発言しているときは必ず記録を行うなど、適宜分担することが求められます。大型スーパーの誘致を認めるのか認めないのか、認めるとしたらどのような条件を出すのかなど、ポイントを明確にしながら議論を進めます。

(8)発表会

各グループの議論のポイントを書いた模造紙を貼りだした後で、発表者が議論の内容を発表し、他のグループからの質問などを受けつけます。

(9)ふりかえり

すべてのグループの発表が終わった後に、ファシリテーターが全体をふりかえります。今回のロールプレイの活動の意図や目的を参加者が共有できるように、各グループの意図や方向性に関する気づきに意識的にコメントをするなど、補足説明や質問などを適宜行います。

4 役割

☆ファシリテーター(研修全体の企画・準備・指導など)

- ・参加者に合わせて、適宜演習の教材を作り替えるなどの工夫をします。
- ・参加者が意見を活発に出して議論が進められるような雰囲気作りに努めます。
- ・全体の流れに目配りをしながらグループを回り、アドバイスをします。

☆司会者(役割の、市役所の担当者代表が行っても良い)

- ・参加者の意見がスムーズに出るような雰囲気作りに努めます。
- ・発言者の発言内容を参加者全員が理解できるよう、ポイントを整理したり、必要に応じて質問します。
- ・意見の押しつけや感情的な意見の応酬にならないように気をつけます。

☆参加者

- ・まちの状況や役割、何が問題になっているのかを良く理解します。
- ・あまり考え込みすぎないように、思ったことを素直に話します。
- ・感情的にならないようにします。

☆助言者(可能であれば、各グループに1人ずつ)

- ・グループでの進行がスムーズに行くように適宜助言します。
- ・議論の展開を見通しながら、内容のポイントを整理して助言します。
- ・時間をオーバーしないように、進行の見通しを持って助言します。
- ・ファシリテーターとも、必要に応じて相談しながら進めることに心がけます。

資料 2-1「わたしたちのまちの現状と郊外型大型スーパーの誘致問題」

1 まちの現状

私たちのA市は、人口約15万人の古くから開けたまちです。昔は街道が通っていて、その宿場町としての役割を果たしていました。街道は今では国道となり、それに沿って鉄道も引かれ、駅を中心に街が発展してきました。市役所も駅の近くの国道沿いにあり、昔からの街並みに人々が生活しています。その中心街には昔からある地元スーパーを核に商店街が広がり、古くからの住民も利用しています。

中心街の渋滞がひどかったため、10年前に郊外に国道のバイパスが開通しました。それに合わせてバイパス沿いの郊外に住宅団地が開発され、そちらに引っ越して住む人が増えてきました。市全体の人口は余り変わっていませんが、中心街の人口は10年間で3割減ってしまいました。

中心街の駐車場は狭くてあまり台数が置けず、不便でしかも有料です。郊外の団地に住む人々は、車で隣のB市の百貨店や大型スーパーに買い物に行くようになり、中心街のお客が減ってきています。地元スーパーや商店街の売り上げも減っていて、経営が苦しくなっています。

B市は人口が50万人で、A市の北30kmの所にあります。工業都市として発展を続けていて、人口も増えてきています。大きな商店街に加え、全国展開をしている百貨店や大型スーパーもB市の中心にあります。規模も大きく、品揃えも豊かですが、駐車場が有料で、スペースの問題から週末は順番待ちになることもあります。

A市には大きな働き口があまりないため、B市の工場や商店に働きに行く人も増えていきます。A市では失業者も徐々に増えてきています。

2 郊外型大型スーパーの誘致計画

A市の市長は、このままではA市の中心街はさびれていき、人々は色々な面で便利なB市に魅力を感じるようになり、人口もいずれ減っていつてしまうのではないかと考えました。そのようなとき、全国展開している大型スーパーチェーンから、A市郊外の国道バイパス沿いに大きな郊外型店を出店しようとする計画が持ち込まれました。市長は、中心街ではなく郊外だという点に悩みましたが、車の便が良く、広い用地の確保も可能なのは郊外であるし、団地の近くでもあるのでA市の人々が地元で買い物をしやすくなるのではないかと考えました。また、バイパス沿いということから、A市だけでなく周囲の市町の住民もA市に買い物に来てくれるようになり、A市がさびれていくのを防げるのではないかと考えました。

そこで、市長は市役所内に担当部署をおき、責任者を決めるとともに、市民にも計画を提案して意見を聞くことにしました。

資料 2-2「役割カード」

賛成から反対まで、多様な意見が出てきそうな立場を用意します。役割カードをすべて使う必要はありません。参加者の人数やグループ数、研修の趣旨や参加者の職業や年齢と役割カードで設定されている立場とのマッチングの適切性などを考慮して、使用する役割カードを取捨選択します。

役割カードは本教材で設定した役割だけでなく、研修を開催する地域社会の状況や参加者の動向を見て、新たに作って入れ替えるなど工夫します。また、同じ賛成・反対という結論でも、その理由が異なるような意見が出てきそうな立場、賛成・反対どちらにも決めかねるような期待と不安が入り混じったジレンマ状況になりそうな立場などを設定し、社会の複雑さが実感できるようにすることがポイントです。

まちづくりの専門的知識を持った学識経験者のような客観的な立場を設定して、他の町のよい・よくない事例を話してもらう方法もあります。ただし、役割カードを作るのが大変ですし、一般の人が演じるのも難しいかもしれませんので、開催側のスタッフが助言者兼専門家として話し合いに入る方法もあります。

【郊外住宅団地の住民】

- 30 歳代の夫婦に小学生の子どもが2人の4人家族。
- 自動車ですべて通勤や買い物をしている。買い物は大きくて便利な隣のB市の百貨店や大型スーパーに行っている(商品が豊富で、子どもの遊戯施設もあるので、気に入っている)。◇郊外型大型スーパーがあれば、B市まで行かなくてもよい。

【シングルマザー】

- 20 歳代の女性で3歳の子供がいる。
- 中心街の地元スーパーでパートとして働いている。生活も苦しく、車は持っていない。子どもは職場のすぐ近くの託児所に預けている。
- ◆職場のスーパーが無くなったら困る。
- ◇郊外型大型スーパーに雇ってもらえるかも。
- ◆でも、車がないので通勤に困る。託児所と職場が遠くなり、支障が出る。◆道路の渋滞が心配。団地の住環境が悪化しないか心配。

【中心街の住民】

- ☐ 70 歳代夫婦の 2 人暮らし
- ☐ 自動車や運転免許証は持っていない。
- ☐ 食料品等の日常生活の買い物は近くの商店街まで徒歩で行っている。
- ☐ 商店街の店の人やお客同士は顔見知りで、買い物だけでなく会話も楽しんでいる。
- ◆ 郊外型大型スーパーに押されて中心街の商店が無くなると、買い物や人づき合いができなくなって困る。
- ◆ 車がないので、郊外型大型スーパーには行けない。
- ◆ 中心街が寂れて治安が悪化するかも。

【大型スーパーチェーンの責任者】

- ☐ 郊外のバイパス沿いに数千台の駐車場を完備した大規模店をつくって、周辺の市町村からもお客を集めたい。
- ☐ 自社店舗だけでなく、テナント、遊戯施設、映画館なども入れたショッピングモールをつくりたい。
- ☐ 市の中心街との間で有料のシャトルバスを走らせたい。
- ◇ 商圏が広く、利益が期待できる。
- ◆ 一部の地元の反対が心配。

【商店街店主】

- ☐ 夫婦で店を経営している。
- ☐ 基本的には 9 時～19 時までの営業。毎週火曜日が定休日。
- ☐ なんとか家族で食べていける状態。
- ◆ 郊外型大型スーパーにお客をとられるのでは。
- ◇ 郊外型大型スーパーからテナント出店の誘いがある。お客が増えて儲かるのでは。
- ◆ 郊外型大型スーパーの出店料が高くて払い続けられるのか心配。
- ◆ 無休で 22 時までの営業なので夫婦だけではやっていけない。
- ◆ なじみのお客さんが来られなくなるかも。

【地元スーパーの社長】

- 地元密着 50 年。地元のお客さんが多い。
- 経営は苦しいがなんとかやっている。従業員を 50 人雇用していて雇用条件も優遇し、社員が助け合っている。
- ◆駐車場などを広げることが難しい。郊外型大型スーパーにお客をとられて倒産するのでは。倒産したら、従業員を解雇せざるを得ない。

【A市役所の担当者代表】

- 市の発展を願って仕事をしている。
- 中心街の再活性化を目指している一方で、郊外の発展も考えている。
- 限られた財源で、どのような政策をとればよいかを模索している。
- ◇郊外型大型スーパーの出店で市の人口も維持でき、今後の発展も期待できる。
- ◇団地の人口もさらに増えるかもしれない。
- ◆中心街と郊外団地の住民の意見調整に苦慮している。
- ◆中心街の空洞化は市として避けたい。

【高校・大学生】

- A市で生まれ、中心街にずっと住んでいる。
- 生まれ故郷の市には愛着を感じており、就職後も地元で住み続けたいが、就職口や居住環境の便利さで、他の市にも魅力を感じている。
- ◇郊外型大型スーパーが来て、買い物等で生活が便利で豊かになることが期待できる。
- ◇市の衰退が防げるかも。
- ◇就職口が増えるかも。
- ◆中心街の古い街並みが衰退して、母校がなくなってしまうかも。

資料 2-3「話し合いのルール」

□自分の実際の立場を抜きにして、役割カードの人物になりきりましょう。

□グループ全員に伝わるように、わかりやすく話しましょう。

□話し合いが活発になるように一人ひとりが意識しましょう。

- ・あまり考え込まずに、思いついたことを話しましょう。
- ・他の人の発言内容も良く聞きながら、自分の考えを深めましょう。
- ・他の人の発言を批判するのではなく、建設的な質問をしましょう。

他の人に議論で勝つことが目的ではなく、お互いの考えをわかり合った上で、みんなで一緒に考えることが目的であることを理解しておきましょう。

- ・進行係の発言や助言者のアドバイスを良く聞きましょう。

*もし、何か批判されたと感じたとしても、それはあなたが演じている役割(立場)に対しての事です。あなたの人格が批判されたわけではありませんので、感情的にならず、建設的な意見や質問をするようにしましょう。

ワークシート 2-1「参加者用ワークシート」

氏名 _____

皆さんは、A市の住民です。A市の郊外団地近くのバイパス沿いに、郊外型大型スーパーの誘致計画が持ち上がっています。本日は、この問題をめぐって皆さんがある立場になって話し合いを行います。この問題は、自分たちが住んでいる市の生活環境の変化や将来のまちの発展・衰退にも影響を及ぼすことが予想され、市の住民の皆さんにとって大切な問題でもあります。このワークシートを手掛かりにして積極的に発言して下さい。

1 あなたの役割

--

2 A市の状況

下に示されたポイントを観点にして、A市の状況についてのメモをとってください。示されたもの以外にも大切なポイントがあるかと思います。思いついたポイントを適宜つけ足して下さい。合わせて、自分の立場ならこう考えるということ
で思いついたことも合わせてメモをとっておきましょう

〔人口：年齢構成や市内での分布〕

〔市の中心や郊外の様子：公共施設や住宅地、交通など〕

〔市の産業・特に商業：商業圏など〕

〔雇用・失業〕

*他にも気づいたことがあれば記入してください。

{ } { } { }

3 郊外型大型スーパーの誘致問題について

自分の立場を基にして、2番で出てきたポイント等を考える観点にいただき、自分なりにメリット・デメリットを考えて下さい。また、話し合いを聞いていると、新たな疑問も出てくると思います。一番下の欄に書いておきましょう。話し合いの際は、メモをとることよりも発言を優先して下さい。

〔メリット〕

〔デメリット〕

〔その他・疑問点〕

4 自分なりの意見

話し合いを終えて、自分なりの結論を、理由を添えてまとめて下さい。また、今回の研修で気づいたことを、自由に書いて下さい。

ワークシート 2-2「傍聴者用ワークシート」

氏名

皆さんは、A市の住民です。A市の郊外団地近くのバイパス沿いに、郊外型大型スーパーの誘致計画が持ち上がっています。本日は、この問題をめぐって様々な立場の人達が話し合いを行います。皆さんは、話し合いを聞きにきた傍聴者です。でも、単なる第三者ではありません。この問題は、自分たちが住んでいる市の生活環境の変化や将来のまちの発展・衰退にも影響を及ぼすことが予想され、市の住民の皆さんにとって大切な問題でもあります。話し合いの後半では、傍聴者にも意見や質問の機会があります。このワークシートを手掛かりにして話し合いを聞いていただき、適宜メモを取りながらその内容を理解していただいた上で、後半の質疑で積極的に発言して下さい。

1 A市の状況

下に示されたポイントを観点にして、A市の状況についてのメモをとって下さい。示されたもの以外にも大切なポイントがあるかと思います。思いついたポイントを適宜つけ足して下さい。

〔人口：年齢構成や市内での分布〕

〔市の中心や郊外の様子：公共施設や住宅地、交通など〕

〔市の産業・特に商業：商業圏など〕

〔雇用・失業〕

$$\left(\begin{array}{c} \vdots \\ \vdots \\ \vdots \end{array} \right) \left(\begin{array}{c} \vdots \\ \vdots \\ \vdots \end{array} \right) \left(\begin{array}{c} \vdots \\ \vdots \\ \vdots \end{array} \right)$$

話し合いを聞きながら、1番で出てきたポイント等を考える観点にいただき、自分なりにメリット・デメリットを考えて下さい。また、話し合いを聞いていると、新たな疑問も出てくると思います。一番下の欄に書いておきましょう。

〔メリット〕
〔デメリット〕
〔その他・疑問点〕

話し合いを終えて、自分なりの結論を、理由を添えてまとめて下さい。また、今回の研修で気づいたことを、自由に書いて下さい。

教材3「A村村長選挙の選挙公報づくり」

「政治・選挙とくらしとのつながりを考えてみよう」

— 住みたくなるような“村”をつくろう —

A村(架空の村)の概況、人口・世帯、産業、基盤整備、村民所得・村財政等についての解説文を読んで、村の特徴や地域課題、政治的課題等を把握したうえでグループの代表が村長選挙に立候補するための政治政策(マニフェスト)を策定し、選挙公報として発表し合うという設定です。

課題について話し合う過程で生みだされるアイデア豊かな政策提案を通して、政治的判断力や政治・選挙への参加意欲を向上させることがねらいです。

1 教材のねらい等

参加者がグループを単位としてA村の村長候補になります。身近な問題から村全体の問題について自由に意見を出し合い、よりよい村にするための話し合いをします。村の住人として、自分達の考えた政策と他の候補者の政策を比較検討し、「村の将来を任せるのはどの候補者がよいのか」についてグループで議論をし、判断します。実際の選挙では、選挙ポスターの掲示や選挙カー等での選挙運動が行われますが、この教材では候補者の政策を住民に伝えるための「選挙公報」を作成します。その作業過程で、グループとしての意見をまとめます。

政策を立案し、「選挙公報」を作成するといっても難しく考えることはありません。参加者が日頃生活で不便を感じたり、不満に思ったりすることなどを思い出し、それらを改善する方法を考えてみる・・・そこから政治への参加がはじまり、政策につながっていきます。その政策を周りの人々にうまく伝えられるよう、目に見える形にすることが「選挙公報」を作成するということです。

これまでの政策や現実の政策にとらわれることなく、ブレインストーミングの要領で、自由な視点、自由な発想による村づくりの政策をかがげます。話し合いの基本ルールは、自由に思いつきを出すこと、たくさんの思いつきを出すこと、他の人の思いつきを批判しないこと、他の人の思いつきからも連想することです。

この教材では、あくまでも架空のA村のまちづくりについて話し合いをするので、実際の都道府県や市区町村の状況を参考にすることはかまいませんが、あくまでも課題に沿った形で「選挙公報」を作成します。

2 学習の進め方

(1)全体の流れと所要時間

- | | |
|--------------------------------|----------------|
| ・アイスブレイク | (10 分) |
| ・課題、内容、資料、進め方等の説明 | (15 分) |
| ・活動 | (100 分) |
| 解説資料の読み取りと協議、マニフェストの策定、選挙公報の作成 | |
| ・発表会 | (30 分) |
| ・評価 | (10 分) |
| ・学習のふりかえり、まとめ | (15 分) 計 3 時間 |

(2)準備する物

- | |
|---|
| ・資料 3-1「A村の現況」50 頁 |
| ・ワークシート 3-1「選挙公報作成ノート」53 頁 |
| ・ホワイトボード(記入用具、マグネット等) — 各グループに 1 枚 |
| ・模造紙(選挙公報) — 各グループに 2 枚 |
| ・台紙(模造紙の下に敷くもの) — 各グループに 1 枚 |
| ・付箋紙(縦横 7.5cm程度 黄色、ピンク色、青色の 3 色) — グループ数分 |
| ・サインペン(中字用 黒色) — 人数分 |
| ・サインペン(太字用 黒色、赤色、青色の 3 色) — 各グループに 1 セット |
| ・セロハンテープ — 各グループに 1 個 |
| ・よくできましたシール(付箋紙などで代用可) — 人数分 |
| ・感想文用紙 |

3 具体的な手順

(1)アイスブレイク(10分)

(2)課題、内容、資料、進め方等の説明(15分)

資料 3-1「A村の現況」、ワークシート 3-1「選挙公報作成ノート」を使って、分かりやすく短時間で説明します。

(3)活動(100分)

①グループ分けと役割分担

なるべく所属団体、居住地域、職業、男女、年齢等がばらけるように、5～6人程度のグループを作ります。自己紹介の後で、グループでの進行係、記録係、発表者を決めます。

②A村(架空の村)の現状把握

まず、各人がA村の現況(資料 3-1)を読んで、「概況」「人口・世帯」「産業」「基盤整備」「村民所得・村財政」等の分野別に問題点を抽出し、その解決策を考えます。それらは、続いて行なわれるグループ内での話し合いの土台となるので、自由な発想で、質より量を心がけるようにします。考えたことは、付箋紙に書き留めます。

③分野別問題点・解決策、優先順位の発表と検討

各人が抽出した問題点や解決策を、発表し合い、効果や優先度などを検討してそれぞれに順位をつけ、グループとしての意見をまとめます。この作業は、KJ法(→10頁)の要領でアイデアや意見を図解していきます。完成したら、模造紙に貼りつけます(付箋紙が落ちないようにセロハンテープで固定します)。各人はグループの意見をワークシート 3-1「選挙公報作成ノート」にまとめ、記録係はホワイトボードに書き出します。

④理想とするA村のイメージとそれを実現するための政策を立案

まとまった意見をもとに、グループとして重視していく分野、そうでない分野を

順位づけし、理想のA村のイメージを確定し、スローガンを作成します。

スローガンを実現する政策を立案していきますが、理想を実現するための政策が落ちていないか、力強い提案になっているかなどを吟味し、特色ある主張ができるようにします。

また、発表に備えて、自分達の政策に対する想定問答と、他の立候補者への質問を考えておきます。

⑤政策を掲げた「選挙公報」原稿の作成

自分達の意見を伝えるためには、まず興味を持って見てもらうことが大事なので文字の大きさや配置などを工夫し、見やすく、わかりやすいものを作成します。

(4)発表会(30分)

各グループの選挙公報をホワイトボードなどに張り出し、予め抽選等で決めておいた順番に従い、各グループの発表者が村長選挙の候補者となって政策を発表し、聴衆(他のグループ)からの質問に答えます。各候補者は発表時間を厳守します。

①基本政策(目指す村づくりの方向)

グループが考える政策目標(スローガン等)、基本的な政策もしくは最も重視する政策を、現状と解決策とをあわせて発表します。

②優先分野

各分野の順位づけに対する考え方、まとめた各分野の順位と当該分野を重視する理由を発表します。重視しない分野については、その影響も発表します。

③自由発表

さらに、「特にPRしたい政策」あるいは「全く別のPRしたい政策」についての発表も認めます。

(5)評価(10分)

参加者が、自分のグループを除いて最も優れていると思うグループの政策(選挙公報)に、「よくできましたシール」を貼りつけて順位を決めます。

(6)ふりかえり、まとめ(15分)

研修をふりかえりながら、気づいたことの共有と共有事項の確認をして研修成果をまとめます。さらに、研修後の活かし方等を約束し合います。

4 役割

☆ファシリテーター(全体の指導)

参加者一人ひとりの思いや意見をうまく引き出しながら進めます。

- ・ 分かりやすいプレゼンテーションを心がけ、参加者が目的を十分に理解して取り組めるように配慮します。
- ・ 共感的、受容的な雰囲気をつくりながら、柔軟な姿勢で進めます。
- ・ 参加者が主体的に参画でき、参加者同士のコミュニケーションが図られるように気を配ります。

☆進行係(各グループ)

- ・ 参加者の意見がポイントから外れないように進めながら、できるだけ多くの意見を引き出します。
- ・ 特定の人意見だけで討議が進んでいくことがないようにします。
- ・ 自分の意見や結論を押しつけないように気をつけながら進めます。
- ・ 討議内容をまとめながら進め、予定時間内に終了できるようにします。
- ・ 適宜休憩を取ります。

☆発表者(候補者)

- ・ 発表したい事項をメモしながら、作業に参加します。
- ・ グループとしての主張や提案を強調し、アピールします。
- ・ 配分時間内で発表を終えられるように、発表内容をまとめておきます。

☆参加者

- ・ 思いつきや推測の意見でもよいので、積極的に意見を出すようにします。
- ・ 討議が円滑に進むように司会者に協力します。
- ・ 発表者以外のグループメンバーが、質疑の時間に発表者の意見の補足を行うこともできます。
- ・ 自分達のグループと他のグループの政策を比較し、疑問な点は積極的に質問します。

☆助言者

ファシリテーターの他に、各グループに次のような役割を担う複数の助言者(選挙管理委員会職員又は明るい選挙推進協議会員)を配置すると、より充実した研修が期待できます。

- ・ 自己紹介や役割分担がスムーズに進むよう助言します。
- ・ 参加者の積極的な関わりや協力で、グループ内の意識が向上するよう助言します。
- ・ 作業手順を理解し、完成へのイメージが描けるよう助言します。
- ・ 資料の読み取りと分析、深まりのある話し合いができるよう助言します。
- ・ 効果的な表現を工夫しながら作業をまとめ、時間内に発表準備を完了させるよう助言します。

5 研修の充実と応用

○演習内容を「選挙公報作成」の他に、「選挙公約(マニフェスト)作成」、「演説原稿作成」、「選挙ビラ作成」として研修を展開することもできます。

○実際の選挙で作成、使用された「選挙公報」や「選挙公報原稿用紙」等を示して、「選挙公報」に対する理解を深めるとともに、「選挙広報」との違いを理解してもらう機会にもなります。

○資料 3-1「A村の現況」を、参加者に事前に送付し、一読しておいてもらうようにすると、一層効果的な展開が期待できます。

○模造紙に貼り付けた付箋紙は、そのまま保存し、次回の研修でその成果を生かすことで、より完成度の高い研修を目指すことができます。

○ホワイトボードは、打ち合わせ時のメモに使いますが、時間等の都合で模造紙に清書できない状況になった場合には、そのまま「選挙公報(案)」として使えますし、カメラ等に収めて研修成果として持ち帰ることもできます。

○この教材は、各種選挙で投票を経験済みの成人を対象としていますが、青年等を対象とする研修では、はちまき・たすき姿で「立候補の演説」をさせたり、実際の「投票記載台」や「投票箱」等を使用することなどによって、本番同様の投票体験の場とすることもできます。

資料の補記修正等

〇リアリティ

A村を、研修開催地の規模に合わせて“〇〇市”、“△△区”、“□□町”のように市区町村名を工夫したり、あるいは開催地に関わる資料を随所に挿入したりすると、より身近で具体的な話題が提示されることから、リアリティに富んだ政策論争や「選挙公報」の完成が期待できます。

〇現況の設定項目

A村の現況についての設定項目(概況、人口・世帯、産業、基盤整備、村民所得・村財政、その他)の説明が、不足もしくは短くて使いにくい、あるいはA村の設定規模が開催市区町村の実態とかけ離れている、さらには、都市部の実情にはそぐわないなどという場合には、適宜、補記・修正してください。

その際に、政治・選挙に関する意識調査で用いられた以下の質問項目から、必要と思うものを選んで資料を作成することもできます。

「今回の選挙でどのような問題を考慮しましたか。いくつでもあげてください」

〇回答肢(回答数の多い順)

景気・雇用(64.3%)、年金問題(64.1)、医療・介護(59.8)、税金問題(36.5)、少子化対策(32.4)、教育問題(31.3)、環境問題(25.4)、財政再建(25.3)、所得格差(25.1)、物価(24.4)、政権のあり方(23.5)、行政改革(19.1)、政治資金問題(16.5)、中小企業対策(15.8)、災害対策(15.8)、地方分権(14.1)、防衛問題(12.6)、国際・外交問題(12.2)、治安対策(11.0)、農林漁業対策(9.6)、憲法問題(7.8)、土地・住宅問題(6.4)、考えなかった(1.7)

(第45回衆院選に関する意識調査 平成21年10月調査 明るい選挙推進協会)

〇工夫

この他に、開催市区町村の特徴や地域事情、活動状況、研修日程等に応じた工夫を加え、研修参加者自らのアイデアでまちづくりをする興奮を味わわせ、さらには楽しみながら政治・選挙を論じ合う機会として設定してください。

資料 3-1 「A村の現況」

1 概況

A村は、面積約100平方km、耕地面積1,500ha、林野6,800ha、六甲田水系につながる溪谷や一部海岸線を含む変化に富んだ自然がある反面、平野部は農耕地にも恵まれている。名所としては、昔から村民の憩いの場となっている温泉「長生き湯」があり、また、最近発掘された三角山縄文遺跡があり、調査が進んでいる。

文化・スポーツについては、村内にある公立高校を中心にアーチェリーが盛んで、オリンピック出場者を輩出している。

2 人口・世帯

村の人口は1,475人。うち287人(19.5%)が65歳以上、15～64歳の生産年齢人口が965人(65.4%)、0～14歳の年少人口が223人(15.1%)となっている。農業離れに加え、雇用の場が少ないことや都会指向から、若者の流出が著しく、年少人口の減少傾向と老年人口の増加傾向が顕著となっている。世帯は、核家族世帯が48.7%を占め、単独世帯も18.5%となり、親子世帯が同居する世帯は32.7%となっている。

3 産業

村の主産業は稲作やだいこん、やまいも、銘柄のトマト「桃子」等の畑作や売り出し中の「あすなろ牛」があるが、経営規模は小さく、専業農家は17.5%、うち農業収入を主とする世帯(1種兼業)は26.4%にすぎない。また、沿岸漁業者もいるが現在、専業漁業世帯は皆無となっている。観光については、夏にハイキングや海水浴、釣り客等は訪れるが、産業といえるものとなっていない。最近、村の若者や有志によりホテルの里づくりやカブトムシの森づくりの取り組みが進みつつあり、遺跡発掘の動向も注目されている。

村の中心商店街も、市部郊外のスーパーマーケットや最近開通した国道バイパスの影響によりすっかり寂れ、国道沿にできた「道の駅」だけが唯一賑わっている。

役場や団体に勤務する以外の村民の多くは建設業に従事したり、誘致した工場で働いたりして生計をたてているが、不況のあおりで雇用が縮小し、最近では近郊の市部の商店、スーパーマーケットや流通、運搬等の従業員、パート等として通勤し生計を維持する世帯が多くなっている。

4 基盤整備

村の基盤整備は、耕地区画の整備、用排水路の整備、土層改良など農業基盤が急速に改善されたが、農業経営を巡る諸情勢から、十分なメリットをもたらさず、負担金が重荷となっている。道路基盤については村道、農道等が整備され、また、国道バイパス開通により利便性が増したものの、産業基盤としては十分機能していない。逆に、バス路線の一部廃止等、村民の生活にはマイナスの側面もあり、小学校の統合や公共施設の運営難など課題が多い。下水道の普及率は20%程度と県平均の半分にも満たない。村の50周年記念事業として建設された多目的文化・スポーツ施設は、斬新な外観と優れた音響効果で評価は高いが、当初の目論見と異なり、利用が十分でなく、運営に窮している。

医療施設については、従前あった村の診療所が廃止されたため、不便を生じており、高齢者施設については最近、地元業者により老健施設が開所されたものの、待機者が多く、また、村社会福祉協議会運営のデイサービスセンターも、定員が少なく、村内のニーズを満たすに至っていない。

5 村民所得・村財政

1人当たり村民所得は県平均251万9千円に比し、180万円と非常に低い水準にある。村内には目立った娯楽施設等もないため、若者のみならず村民の消費活動は隣接する市部におけるものが中心となっている。

また、村財政は年間予算約30億円となっているが、公債費比率(村財政における借金返済経費の占める割合)は25.0%(県平均17.1%)、経常収支比率(地方税、普通交付税など毎年度の経常的な収入である経常一般財源が、人件費、公債費などの義務的支出にどの程度充当されているかを示す指標)は92%(県平均87.8%)となっており、不測の事態に備える基金も底をつく状況にある。

このため、民政安定と活性化のためには、若者が定住できるような産業の振興と村の財政再建が課題となっているが、未だその打開策が見いだせない状況にある。こうした中、最近になって中央資本の最先端技術による産業廃棄物処理・処分施設立地の話が持ち上がり、建設受注や税収、雇用効果等が期待できることから、推進を望む村民は隣接町村と綱引きをしているが、反対者も多く、村としては態度を決めかね、進展をみていない。

6 その他

先に行われた参議院議員通常選挙では、村民の関心も薄く、村選管では懸命の啓発キャンペーンを行ったものの投票率は53.91%と、県内市町村でビリから7番目という結果であり、中でも20代の若者の投票率は22.8%と極端に低いものであった。

注：表記中用いた固有名詞は実在のものとは関係ありません。

資料提供：青森県選挙管理委員会

ワークシート 3-1「選挙公報作成ノート」

グループ名

氏名

皆さん一人一人がA村の住人となって、それぞれの視点や発想による村づくりを考えます。そして、その発想をもとに村長選挙に立候補し、政策を主張するための選挙公報(原稿)を作成します。

1 A村の問題点

あなたが考えるA村の問題点や改善点について、分野ごとに記入してください。
どんなに細かいものでもいいので思いついたら、記入しましょう。

【概況】

【人口・世帯】

【産業】

【基盤整備】

【村民所得・村財政】

【その他】

2 問題点の解決策

1で挙げた問題点や改善点について、具体的な解決策を書き出してください。

【概況】

【人口・世帯】

【産業】

【基盤整備】

【村民所得・村財政】

【その他】

3 理想とするA村のイメージ(スローガン等)

2で検討した問題点の解決策をもとに、あなたの考える理想のA村のイメージを描いてください。その際には、それぞれで検討した項目について順位をつけ、どのような項目を重視するのかを明確にしてください。

また、その姿を簡単に表現するような「スローガン」を考えてください。

4 政策

これまでの検討事項を基に、理想のA村にするための政策を立案してください。

【選挙公報イメージ】

4でまとめた政策をよりわかりやすく伝えるような、選挙公報のイメージを考えてください。実際に「キーとなるフレーズ」や「図・イラスト」等を割り付けるなど、できるだけ具体的なイメージを提示してください。

【グループ員(他のグループ)からの意見等】

話し合いを通してのグループ員(あるいは他のグループ)からの反応、自分の考えと同じ点や異なる点、疑問に思う点など、最終的に評価の参考となるような事項を整理してください。

☆ A 4判 2枚

☆ 配布するシートは、□内の説明文を消し、書き込めるようにしてください。

教材4「暮らしを任せられる政党を見つけよう」

財政が厳しくなる一方で少子高齢化が進み、財政をしっかりと活用しないといけない。暮らしに直結する課題を実現してくれる政党はどこか。公共事業、福祉、教育の未来を考え、その問題をめぐる多様な見解から政治的な教養を高めることによって政治を身近にする。意志決定としての投票を行うワークにより、投票の意義や社会的合意とは何かを考える市民を育成する機会とします。

1 教材のねらい

社会では解決が求められる様々な社会的課題があります。それを政治家に任せていては、自分たちの声が届いているか心もとない。従って、アクティブな市民として、社会の意思形成を図り、公共性の高い、今回は「暮らし」を題材に政党をつくることによって中身を知ることができます。それぞれ、与えられたロール(役割)に即して議論、討論することによって、政治的教養が深まっていきます。そのことが、選挙時の投票選択の基準の一つを考える機会を提供することになります。

本教材は、政党をつくるというプロセスを通じて、社会の課題、今回は「暮らし」と政府の関わりを考える材料を提供します。その多様性、複雑さについて実感を持って伝えることができ、このワークで考え議論される政策が、多くの人々に影響を与え、この市民社会の未来を考える大事な公共性の高い議論となります。民主主義社会における社会的な課題の解決に市民が目覚め、政党を選ぶ選挙へその意思を表示することの大切さを実感する基礎的視野を、グループワーク参加者は実感することができます。グループワークが大切なのは、自らの見解を広げ、社会的な課題を公論で議論できる非日常の空間であることです。この練習は、日々の忙しい生活の中でも、公的なものに参加し、社会の一員である責任を体感する上で大きな役割があります。シティズンシップ教育では、単に、個人の権利主張だけの問題でなく、市民社会として、自分と違う弱者や、考えの違った人々の声に耳を傾け、どのような社会が、あるいは未来が、自分たちに必要なものなのかを獲得することが大事になってくるからです。

2 教材の特徴

ロールプレイであることです。与えられた役割(ロール)に即して擬似的な政党をつくり、ロールを実行しながら政策の中身の理解を深めます。また、その政党のマニフェストをつくることによって、政党の機能を身につけていきます。台本はないので、それぞれの立場についてのコンセプトを理解し、疑似政党グループ内でより政策を固め、プライオリティ(優先順位)を議論すると良いでしょう。3つの政党を擬似的につくりませんが、参加者が4つ目の政党をつくりたいという場合は、立ち上げてもらうと良いでしょう。

3 この教材で取り上げる社会的課題

日本の財政は、国地方合わせて、1000兆円の借金となり、先進国でも危機的状況である。そこで、財政再建は喫緊の課題である。しかし、国民の暮らし、福祉や教育、安全を財政が支えていることも間違いない。単純に増税したら、その中で、特定の人々が困ることも想定される。この複雑で大切で、待ったなしの課題に、どのように、民意(国民の声の反映)を政治が取り上げるかは未来に責任ある政党の義務といっても良い。

したがって、この課題を取り上げて模擬政党をつくり、議論する価値と、政党の機能、公正な選挙の役割を知ることは、参加者の主権者意識と、民主主義の形成に参画していくことの大切さを、生の政治課題から実感することになる。

4 学習の進め方

(1)全体の流れと所要時間

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| ・ 政党と、選挙のやり方を考える選挙推進グループをつくる(10分) | |
| ・ 政策を練る | (20分) |
| ・ 政策を広げる・選挙をする | (30分) |
| ・ 投票をしてみる | (10分) |
| ・ ふりかえり | (20分) |
| 計 1 時間 30 分 | |

(2)準備する物

- ・ 資料 4-1「私たちの国の財政の現状と財政再建」 64 頁
- ・ 資料 4-2「各政党の見解」 66 頁
- ・ ワークシート 4-1「政党政策づくり」 67 頁
- ・ ワークシート 4-2「選挙推進グループ」 69 頁
- ・ 模造紙(政党の数×2)、マジックペン(3色以上×15本)、A3用紙(30枚)

5 具体的な手順

(1)政党と、選挙のやり方を考える選挙推進グループをつくる。(10分)

①4つのグループをつくる。

ア タイムライン(例えば誕生日の早い順に並び、番号をふる)で、4つのグループをつくります。希望者でつくっても良い。

イ 属性によって、市民、若者選挙啓発グループ、選挙管理委員会職員、明るい選挙推進協議会会員などがうまく分散するようにしても良い。

ウ この教材では、「財政再建党」、「どんどん仕事党」、「教育福祉党」の3つの政党と、選挙推進グループをつくります。他に政党をつくってもいいが、それだけ時間がかかります。

②政党名をつける。

政党名をつけ、党首を選出します。

(2)政策を練る。(20分)

政党のコンセプト(資料 4-2)を先に渡せば、時間の短縮になります。

①政党グループ

ア A3用紙に、自分たちの政党のコンセプトに合わせた政策(マニフェスト)をつくります。書記を決めて、提案をA3用紙に大きく書いてメモします。政策のばらまきにならないように、プライオリティをつけます。

イ 特にどのような年齢階層やどんな地域に訴えていくかを考えます。

ウ 選挙用のタスキ(A3用紙を使って)、ポスター(模造紙)をつくります。

②選挙のやり方を考える選挙推進グループ

上記(1)政党をつくる、(2)政策を練る間に、以下のことを進める。

ア グループのリーダーを決める。

イ どのように選挙を公平にしきるかを考えます。

投票用紙は？ 選挙公報は？ 公開討論会をどう公平に運営するか？

できれば選挙公報を発行します。

ウ 市民に対する選挙の周知と投票推進の方法を考えます。

(3)政策を広げる・選挙をする。(30分)

- ・選挙活動(公開討論会) 政策発表5分、討議5分(×政党数)
党名のたすきをつけたり、模造紙を見せて自分たちの政党をPRします。
- ・選挙推進グループは、発表の順番を公平に抽選で選びます。

(4)投票を試みる。(10分)

可能なら、選挙管理委員会から投票箱、投票記載台を借りて投票する。

選挙推進グループは、

- ・投票よびかけ紙(投票所入場券)を参加者全員分つくって配布します。
- ・投票所を開設します。
- ・受付で投票よびかけ紙を受け取り、投票用紙を発行します。

投票用紙は、政党名を記載したコピーをつくるか、白紙に政党名だけ書いてもらうことにします。

- ・投票後、開票する。

各政党の得票数、無効投票数を発表します。また、判断が難しい記載があれば、選挙推進グループが全体に示して、見解を発表します。

(5)ふりかえり(20分)

- ・ロールプレイをしてみたの感想を聞く。
- ・政党の立場をやってみたの感想、選挙推進の立場をしてみたの感想を聞く。
- ・国民が政策を理解するには、どのような方法があるか。
- ・選挙の意義、方法が伝わったか議論する。

6 役割

☆ファシリテーター

- ・全体の時間管理をしながら、グループ分けを行います。
- ・場が和やかに過ごせるような気配りと、ワークのねらいを説明します。
- ・ワークの流れを見ながら、効果を上げるように事務用品を供給します。

☆各政党

- ・各政党が、特色、アピールポイントを有権者(参加者)に理解してもらえるように工夫します。あまり難しい内容にならないように、わかりやすいキャッチフレーズをつくるのが効果的です。
- ・弁舌さわやかな党首の選出も、政策の理解に加えて選挙対策としても大切です。
- ・たすきやポスターを模造紙でつくり、選挙活動を盛り上げます。日本の選挙はまじめ過ぎて、楽しさやアピールの力が欠けるので、PR力をどう高めるかも考えます。

☆選挙推進グループ

- ・選挙を公正に盛り上げます。
- ・楽しく盛り上げるための司会の話術や討論会や選挙会場の設定などに、公正、正確だけでなく、広範な有権者に、選挙の楽しさ、意義を伝えるには、どのような作戦を立てて、実践すれば良いかを真剣に考えてやってみます。
- ・場合によっては、公職選挙法の課題について考えてみることも必要です。

☆助言者

- ・全体の進行をみながら、アドバイスをして回ります。
- ・ファシリテーターを兼ねても良いが、専門家(研究者、教員、選挙管理委員会のスーパーバイザー的な管理職)が、ファシリテーター以外にオブザーバーとして参加することによって、より高い見地から助言やまとめを行うことができます。

7 具体的な手順

(1)グループ分け

①同じ仲間や自分の考えや趣向によってグループをつくることもできます。

②参加者の政治選挙に関する意識がそれほど高くない場合や、参加者のグループワークへの参加意欲が低い場合は、それらの参加者が同じグループに固まらないようにうまく偏りを減らしながらグループをつくります。その際、参加人数にもよりますが40人以上60人くらいまでなら、模擬政党を4つまでは増やせます。これ以上グループを細分化すると、このワークの運営が難しくなります。また、2グループだと選択肢が少なく投票への判断が難しくなります。

③参加者の意欲レベルが高く、選挙啓発の活動をしている参加者が多ければ、個人個人バラバラのグループに分けても良いです。

※選挙管理委員会の職員や明るい選挙推進協議会の会員が、できれば4つのグループに万遍なく入ると、ファシリテーターになります。ただ偶然が支配するので、それを気にするかは、このワークのリーダー(ファシリテーター)が決めて、グループ確定前の若干の修正はあり得ます。

グループ分けの方法を考えることも大事です。例えば誕生日順のタイムラインをつくる際、黙って身振り手振りで順番の入れ替えを行うと面白いし、親和性が高まります(アイスブレイクにもなります)。

(2)アイスブレイク

(3)学習の進め方の説明

①このグループワークの目的、政党の機能を理解してもらう。

②選挙の枠組みを理解し、公正公平に運営することを実践してみる。

政党グループはワークシート4-1「政党政策づくり」を使い、選挙推進グループはワークシート4-2「選挙推進グループ」を使います。

(4)社会的課題の把握

資料 4-1「わたしたちの国の財政の現状と財政再建」を使います。参加者が日本の財政状況に関する知識がない場合は、研修会の主催者が 10 分程度、日本の財政の基礎をレクチャーすることが必要な時もあります。

(5)役割の理解

①3つの政党

資料 4-2「各政党の見解」を使います。

それぞれ、ロール(役割)が設定されており、そのロールを短時間で理解して、それを参加者(国民)に幅広く理解してもらうことを目的に、チームで活動します。

役割を演じることでこの財政再建の課題が明確になりますし、課題をさらに掘り下げるために、ワーク会場でスマートフォンやタブレットを使って、情報を収集することも必要です。協働してこの課題に取り組みように、役割の中身を議論して、それぞれの役割を実行できるように、確認してからワークを始めます。

選挙管理委員会の職員がワークに参加する場合は、その中でリーダー的にこの役割を実行するか、逆にアドバイザー的に困ったときのサポートに徹します。どちらにしても、専門的視点から参加・参与していただくと全体のレベルアップができます。そのことによって、このワーク研修の参加者の達成度が上がります。

②選挙推進グループ

選挙活動を盛り上げ、公正に公開討論会を実施し、投票を管理します。賛成反対の単純な役割ではないことをよく理解する必要があります。役割理解をしっかりとしないと、グループワークが成功しません。

(6)ロールプレイ 各グループでそれぞれ議論して行う。

各政党は、党首を決め、政策について話し合うので、日本の財政に関して、政策の内容を深めて知ることができます。

選挙推進グループは、選挙を公正に盛り上げて、有権者(参加者)全体に分かりやすく知らせること、盛り上げるにはどうしたら良いかを工夫します。単純に選挙啓

発を考えるだけでなく、具体的な、シングルイシューの選挙を運営するロールを実践することで、知恵が生まれ、現在の選挙啓発の課題を発見する気づきを得ることができます。

(7)政策発表討論会

政策発表は、有権者(参加者)に訴える大事な場です。たすきや、模造紙による分かりやすい政策提示など、各政党は工夫して望みます。討論でも、政策がうまく伝わるように、質問に答えながら、党の優位性を伝えるようにがんばります。最終的に、票を得る政党の心理を体感することによって、政党の役割と特性を理解します。

選挙推進グループは、発表の順番をくじ引きで決めるなど公平を旨とした運営に留意します。司会は討議にあたって、質問者に公平にあてて、政策が深まるように促します。時間の管理も大事なポイントになります。

(8)話し合いのルール

①実際の自分の考えではなく、役になりきって、その役割を果たすようにします。

②話し合いがうまくいくように、次の点を心がけます。

- ・ 集団で考えることによって良い知恵が出る。
- ・ グループのメンバーを批判せず、意見を多く出し合う。
- ・ 他者の意見を生かすように、全体を運営する。
- ・ まとめ役として、グループリーダーは活躍する。

③参加者に、選挙管理委員会職員や明るい選挙推進協議会委員がいる場合は、選挙運営の視点からワークがうまくいくように、グループ全体に助言します。

④批判されていると感じたとしても、それはワークを達成するための努力であり、感情的にならず、冷静に対応します。意見と人格は違うことを確認して、冷静にワークを続けます。建設的に全ワークが達成できるように、がんばってください。

(9)投票

- ①投票案内、選挙人名簿(参加者名簿)を用意して、模擬選挙会場をつくります。
- ②できるだけ本当の選挙につながる投票用紙、例えば選挙管理委員長の印鑑付のものを発行します。
- ③投票後、公正に開票します。

(10)ふりかえり

模擬政党、模擬選挙推進グループ、模擬選挙のそれぞれのロールで、どんな気づきがあったかをふりかえります。自分の意見を全体会で発信することによって、このワークショップの成果を全体で共有することができます。

3 すぐみの3 政党を設定することによって多様な政策を提示できるので、政策を理解する上での深まりについても意見を表明すると、政治の意志を決定すべき内容の一つを理解することにつながります。

資料 4-1「わたしたちの国の財政の現状と財政再建」

1 財政状況

日本の財政は、世界的にみてもかなり深刻な状況にある。国債と財投債はGDP比 200%を超えた。国債と地方債の合計は 1000 兆円となり、その金額の大きさ、日本の経済水準との関係でも困難がある。ついに、戦前の戦争中の国家赤字水準を突破した。日本銀行総裁は財政規律の大事さを語り、消費税増税が決まっているが、プライマリー・バランス(基礎的財政収支)が取れる見通しさえない。

借金を返さなくては、インフレーションで国民生活が大変になる。また、財政が使えなくなれば、国民の景気、教育・福祉にも大きな影響が出る。その中で、財政再建が必要となっている。専門家(日銀、財務省)がうまくやってきたが、今後の見通しが無い。誰かが、この問題を解決しなくてはならない。また、それには、政治上の意志決定が必要である。

とすれば、この課題を引き受けて、国民に政策提言をして、選ばれて改革に当たらなくてはならない。そこで、3つの視点を提示する。

一つ目は、財政再建を第一にして、財政の縮小(行政改革)、増税を語る政党である。この政党は、財政の危機を国民にしっかりと説明していく。未来の若者に借金を残さないようにする。⇒財政再建党

二つ目は、景気を良くすることで財政再建の解決をめざす。重点的な公共事業で、企業をもうけさせ、給与を上げて、税金を取りやすくする。規制緩和をすすめ、新しい民間の力で、経済発展をめざす。⇒どんどん仕事党

三つ目は、財政再建で切り捨てになりそうな、教育・福祉へのセーフティネットの再構築を提案する。声を上げないと減らされる財政資金の重点配分を要求し、少子高齢化に対応する安心した政治をめざす。⇒教育福祉党

この3つの論点で、3すくみで議論すれば、日本の未来の財政のあり方、重点化の方向が市民的熟議としての模擬選挙で語られ実現していくのである。

2 財政再建の方法も多様にある。

まず、増税である。増税は、その対象になる人々で軋轢がある。法人税は財界が反対し、消費税は国民全般が反発する。累進課税の視点から、税を払える人・企業に払ってもらうことも大事である。そのように、どのような税で、誰から集めるのか、公平で平等なのかも、大いに議論となる。

次に、行政改革や、財政の切りつめである。行政改革に異論のある人は少ない。しかし、国民や市民一人あたりの公務員数は、日本は少なく、非正規化も進んでいるので、公務員を減らしたり、民営化することでは限界も多い。また、極端に現在の予算を削れば、削られた階層や企業から批判もあろう。これは、単純にお金はないからできないという結論では進まない課題なのである。

資料 4-2「各政党の見解」

①財政再建党

国・地方 1000 兆円を超える借金は、国民の未来に暗雲を漂わせている。国が破綻したら、福祉サービスも警察も機能しなくなる。どうやって、この借金を減らすかを考えるのは、未来への責任である。ただ、財政を減らすだけでは、国民の中に困る人も出てくるので、行政改革で小さな政府をめざし、公務員を減らす。また民間でできることは、民間でやってもらう。貧困の人には、福祉の削減は厳しいので、対策を取りながら、消費税増税を進める。

②どんどん仕事党

財政再建も大事だが、まず、景気を良くして、税収を上げることが大事である。地方創世、少子化対策など、重点的な政策が必要である。また、公共事業も、オリンピックに向けて、全国の交通網の再整備も含めて行わないといけない。海外のODAもうまく使って、日本の企業に仕事を増やさないといけない。財政的に苦しいが、仕事があってこそ、この国が幸せになれる。福祉、医療などに回すお金は節約しつつ、消費税増税は仕方がない。

③教育福祉党

財政が厳しくても、憲法で保障される最低の権利は必要である。新たに子どもの貧困など、中間層が崩壊してこの国は、大変な格差社会になっている。正規の労働を増やしつつ、税金を困った国民のために使わないといけない。また、国際化、情報化に対応して、学校教育を改革しないといけない。グローバル人材の育成や、小学校からの IT 教育など、世界で働ける国民を育てる充実した教育政策を、もっと財政も投入して行わないといけない。

ワークシート 4-1「政党政策づくり」

氏名()

＜政党の特色(目的)の共有＞(各人のメモ)

＜党首の選出＞

さん よろしく！

＜政策を列挙、具体例も考えてみる＞

A()

そのメリットは？

B()

そのメリットは？

C()

そのメリットは？

D()
そのメリットは？

E()
そのメリットは？

<優先順位の議論>

No.1 は

No.2 は

No.3 は

<どんな年齢階層、地域に重点的に訴えますか？>

皆様 ご苦労様

ワークシート 4-2「選挙推進グループ」

氏名()

＜選挙推進管理(目的)の共有＞(各人のメモ)

＜グループリーダーの選出＞

さん よろしく！

＜立ち会い演説会の運営方法・ポイントを検討してみる＞

A

B

C

＜選挙啓発のやり方を検討する＞

＜演説討論会の進行表＞

司会

さん よろしく。

＜模擬投票の手順・運営方法は？ 準備メモをつくる＞

皆様 ご苦勞様

教材5「自分たちで選挙の仕組みを変えてみよう！」

選挙の目的と機能をふまえて、選挙で決めるべきこととそうでないことを区別したり、より良い選挙の仕組みを考えたりすることを通して、選挙に対する関心と有権者としての自覚を高めます。

1 教材のねらい

選挙は民意を政治に反映させるという目的を持ちつつ、多様な意見の中から一つの政策を決定するという機能を果たしています。本教材は、このような選挙の理念を実現するための方法を考えることを通して、選挙に対する関心を深めることを目指しています。

投票するにあたって、私たちは、候補者がどのような人で、どのような政策を掲げているかということについてはよく検討します。しかし、選挙の仕組みそのものについてはあまり考えることがないように思います。選挙制度改革が政治課題の一つとして掲げられて久しいですが、一票の格差の問題をはじめ、未解決の問題が山積みにも関わらず、様々な立場の利害が絡み合っなかなか議論が進んでいません。有権者にとって自らの意見が最も反映されやすい公正な選挙のあり方ということが、本来最も肝心で議論の中心になるべきことなのですが、そうなっているとは言い難い状況も見られます。これは、私たち有権者の責任でもあります。選挙を、貴重な政治参加の機会と捉え、それを通していかに自分たちの意見を政治に反映させるかを真剣に考えるならば、選挙の仕組みをどうするかという問題は、政治家だけに任せておくべきことではなく、有権者自らが考えるべき事柄であることは明白です。

本教材は、選挙とは与えられた仕組みではなく、自ら積極的に活用して政治に参加する手段であると捉え直し、そのためのより良い仕組みを自分たち自身で考える力を身に付けようとするものです。

2 学習の進め方

(1)全体の流れと所要時間

- | | |
|-----------------------------|---------------|
| ・グループ分けとアイスブレイク | (10 分) |
| ・ものごとの決定の仕方について | (15 分) |
| ・ものごとの決定の仕方の規準の違い | (15 分) |
| ・選挙で決めるべきことと、そうでないこと | (15 分) |
| ・選挙で決めるべき事柄の規準の違い | (15 分) |
| ・皆の意見をよりよく反映する選挙の仕組みを考えてみよう | (25 分) |
| ・考案した選挙の仕組みを発表しよう | (15 分) |
| ・ふりかえり | (10 分) 計 2 時間 |

(2)準備するもの

- | |
|--|
| ・ワークシート 5-1「どのように決定しますか」 76 頁
(ものごとの決定の仕方についてのワークシート) |
| ・ワークシート 5-2「これ、選挙で決めますか」 77 頁
(選挙で決めるべきことについてのワークシート) |
| ・ワークシート 5-3「ふりかえりシート」 78 頁 |
| ・模造紙(各グループに一枚) |
| ・サインペン |

3 学習の手順

(1)グループ分け

参加者を 3～4 人のグループに分けて、いくつかのグループを作ります。各グループで進行係を決めます。

(2)アイスブレイク

(3)ものごとの決定の仕方について

ワークシート 5-1「どのように決定しますか」を配布し、ア～オについて、その決定の仕方として最も妥当な方法を挙げ、妥当であると判断した理由を書きます。

- | | | | |
|---|----------------|---|----------|
| ア | オフィスの掃除当番 | イ | 忘年会の幹事 |
| ウ | 新しいプロジェクトのリーダー | エ | 地域の自治会の長 |
| オ | 労働組合の長 | | |

ものごとを決定する際には、担うべき負担の公平性、その人物の能力や人柄、構成員の意思などが考慮されなければなりません。例えば、上の例のうちアやイについては公平性、ウとエとオについては能力や人柄、エとオについては構成員の意思が重視される場合が多いと思います。しかし、それも常にそうであるとは限りません。状況によっては、同じ事柄でも考慮すべき観点が違ってくることがあります。

(4)ものごとの決定の仕方の規準の違い

ワークシート 5-1 の回答についてグループの中で互いの考えを交換し、意見が一致したところと一致しなかったところを確認したうえで、それぞれなぜ一致したか、なぜ一致しなかったかについて話し合います。

(5)選挙で決めるべきことと、そうでないこと

ワークシート 5-2「これ、選挙で決めますか」を配布し、ア～オについて、①～③の観点から考えて記入します。

- ①選挙で決めるべきかどうか
- ②常に選挙で決める必要はないとしたらそれはどのような場合か
- ③そのように判断した理由

- | | | | |
|---|----------|---|---------|
| ア | 地域の自治会の長 | イ | 労働組合の長 |
| ウ | 学校のPTAの長 | エ | 地方議会の議員 |
| オ | 自治体の首長 | | |

選挙で決めるべき事柄には、その役割の適性を考えるうえで選ばれた人の能力や資質が特に重視され、かつその判断をするうえで構成員一人ひとりの意思が反映されていなければならないものが該当します。ただし、役割によっては、その判断が状況によって異なる場合もあります。

(6)選挙で決めるべき事柄の規準の違い

ワークシート 5-2 の回答についてグループの中で互いの考えを交換し、意見が一致したところと一致しなかったところを確認したうえで、それぞれなぜ一致したか、なぜ一致しなかったかについて話し合います。

(7)皆の意見をよりよく反映する選挙の仕組みを考えてみよう

(5)で検討した事柄のうち一つを取り上げて、実際に選挙を行うことを想定して選挙の仕組みをグループで考えます。例えば、次のような状況が考えられます。

ある地域の自治会の長を決めることになりました。会長と副会長を1名ずつ決定しなければなりません。会長、副会長の役割は自治会の運営とそのための連絡調整、そして会議の司会が中心ですが、自治会の予算案を検討し自治会に提案するという大きな権限も持っています。その地域は、AからDまでの4つの地区で構成されており、A地区の住民数が最も多く地域全体の半数に少し足りないくらいです。残りの3地区の住民数はほぼ同じです。その地域では数年前から、祭りの費用の自治会負担分をどの程度にするかということが問題になっていました。A地区の住民には祭りを縮小し負担を減らすことを求める人が多いのですが、他の地区では祭りをさらに賑やかなものにするために負担を増やすことを求める意見の人が多くなっています。

さて、この地域の自治会の会長と副会長をどのように決定すればよいでしょうか。単純に一人一票を投じるというだけではなく、次のような観点でより良い仕組みはどのようなものかを検討します。

ア 投票用紙には1人の名前を書くだけにするか。

その獲得票数が最も多い方を会長、次の方を副会長とするか。

イ 会長と副会長を連記とするか、それぞれ別に選挙を行うか。

ウ 会長と副会長は別の地区から選出するようにするか。

選出する地区は考慮しないか。

エ 投票用紙に名前を書くのではなく、予め全候補者の名前を投票用紙に書いておき、順位付けをする投票にするか。この場合には、順位による獲得点数を決めておいて、得点によって当選を決めるという方法が考えられます。

オ 獲得した票数が最も多い方を単純に当選者とするか、それとも過半数の票を獲得を条件とし、過半数の獲得者が出るまで選挙を繰り返すか。

(8)考案した選挙の仕組みを発表しよう

グループごとに考案した選挙の仕組みを報告し、報告が一通り終わったら質疑を行います。どの仕組みが最も適切か、合意形成を図ってもよいと思います。

(9)ふりかえり

全ての活動が終わったらワークシート5-3を配布して、活動をふりかえります。時間があれば、感想を語ってもらっても構いません。

ワークシート 5-1「どのように決定しますか」(ものごとの決定の仕方についてのワークシート)

決定をすべきものごと	決定の仕方(じゃんけん、くじ、選挙など)	妥当であると判断した理由
ア オフィスの掃除当番		
イ 忘年会の幹事		
ウ 新しいプロジェクトのリーダー		
エ 地域の自治会の長		
オ 労働組合の長		

名前()

ワークシート 5-2「これ、選挙で決めますか」(選挙で決めるべきことについてのワークシート)

決定すべき事柄	選挙で決めるべきかどうか (決めるべき：○、決めるべきではない：×)	選挙で決める必要のない場合の状況	判断の理由
ア 地域の自治会の長			
イ 労働組合の長			
ウ 学校のPTAの長			
エ 地方議会の議員			
オ 自治体の首長			

ワークシート 5-3「ふりかえりシート」

◎ 本日の活動をふり返ってみましょう。

1 本日の活動を通して、自分たちの願いを実現するためには、何が必要であると思いましたか。

2 本日の活動の感想を自由に書いて下さい。

名前()

教材 6「ニュース番組を使ったメディア・リテラシーワーク ショップ」

～メディア・リテラシー入門 「問い」を持ってメディアとつきあうために～

- ①私たちがメディア社会を生活していることに気づき、メディアについて学ぶ必要性を理解すること。
- ②メディアについて自律的に考えるための手がかり(基本概念、メディア研究モデル)について、理解すること。
- ③ワークショップという学びの場でメディア分析を経験して、基本概念を理解すること。

1 教材のねらい

メディア・リテラシーとは、市民がメディアに対する能動性を身につけ、メディアを使ってコミュニケーションをつくりだす複合的な能力のことです。そして、そのような力を育てる取り組みや教育活動をメディア・リテラシー教育と呼びます。テレビ、新聞、雑誌、インターネット、携帯電話、ゲーム、DVDなど多種多様なメディアからの情報が私たちの生活文化そのものとなっている現在、メディアを多面的に分析することを通して私たちが社会について思考し、発信していくメディア・リテラシーの学びは、生きていく上で欠くことができないと言っても過言ではないでしょう。

というのは、私たちが社会について知っていると思っていることは、直接経験すること以外はすべてメディアからの情報に依っています。しかし、例えばテレビの映像はどんなに自然に見えても、選択と技法によって構成されたメディア作品です。だが、メディア作品がメディア企業の手を経て制作され、私たちの目の前に示されていることはあまり意識されていません。

日頃、子どもたちだけではなく大人でさえ「テレビでそう言っていたから」「インターネットにそう書いていた」と、メディアからの情報を自分たちの判断や行動の根拠にしているのを目にしたことはないでしょうか。娯楽としてドラマを見てい

ても、そこで提示されている人間関係の結び方や女性や男性の生き方を自分自身と重ねて、何かしら日常生活を送る「手本」にしていることはないだろうか。

また、子どもたちの好きなテレビコマーシャルでは、延々と女性や男性の特性や役割、さまざまな人種・民族的背景を持つ人びとに対するステレオタイプ(型にはまった画一的なイメージ)な見方が提示されています。テレビコマーシャルだけではなく広告は、私たちに何かしら商品やサービスを購入することを通して、「美しさ」「健康」「やすらぎ」「人とのつながり」「幸福」を得ることができるかのように、日常的に語りかけている。

しかも、このようなメディア作品は巨大なメディア産業のビジネスとして送り出され、時には社会や政治の動きとも深く連動している。また最近では、インターネットの世界と既存のメディアが、渾然一体となって社会の動きと相互作用を起こしている。いま一度、メディアとのつきあい方を振り返ってみましょう。

2 メディア・リテラシーの基本概念(Key Concept)

基本概念は、メディアのさまざまな側面を表現したものです。

- KC1 メディアはすべて構成されている
- KC2 メディアは「現実」を構成する
- KC3 オーディエンスがメディアを解釈し、意味をつくりだす
- KC4 メディアは商業的意味をもつ
- KC5 メディアはものの考え方(イデオロギー)や価値観を伝えている
- KC6 メディアは社会的・政治的意味をもつ
- KC7 メディアは独自の様式、芸術性、技法、きまり／約束事をもつ
- KC8 クリティカルにメディアを読むことは、創造性を高め、多様な形態でコミュニケーションをつくりだすことへとつながる

※(鈴木みどり編『最新Study Guideメディア・リテラシー入門編』(リベルタ出版、2013)

この教材では、基本概念1、2を中心に据えています。

3 学び方

(1)ワークショップ

メディア・リテラシーの学びにおいては、学ぶものがメディアを意識化することが必要です。そのため、具体的なメディア分析を行うワークショップを提案します。

(2)メディア分析を経験して「自ら発見する」

ワークショップという学びの場を創るものをファシリテーターと呼ぶが、参加者の発言を促して多面的な「気づき」を引き出すためには、対等な関係で対話を通して新しい発見をしながら学ぶことが重要です。

4 学習の進め方(ワークショップの組み立て方)

テレビのニュース番組を使ったワークショップの組み立て方を説明します。学ぶ者がニュース番組の分析方法を学んで、具体的に実証的なデータをつくって、それにもとづいて話し合いを進めます。

ニュース番組を見て気づくのは、それが、「映像」と「音声」から構成されていることです。さらに「映像」は、人物や事物をさまざまな映像技法を使いながら構成されています。「音声」は、ナレーション、BGM、現場音などの音声技法を使いながら構成されています。このようにメディアは、実社会の人びと、出来事、考え方などをそのまま提示するのではなく、映像、音声、文字などの記号を使いながら構成して再提示しています(リプレゼンテーション)。

基本概念1「メディアはすべて構成されている」について、まず意識化するために、ニュース番組の一部(後述するように「今日1日の動き」など)を分析素材として使用しながら、映像、音声に着目しつつ、それらを「文字化」していきます。映像を文字にする作業は、初めての参加者にとっては難しく感じるかもしれませんが、実証的に根拠を持ってメディアについて語っていく上では重要な作業のプロセスです。

(1) 時間配分の例

・ 自己紹介、進行の説明	(5 分)	
・ メディア・リテラシーとは？	(30 分)	
・ ワークショップ「メディアは現実をどう構成するか～ニュース番組の分析から」 導入(分析素材やシートについて説明)	(10 分)	
映像を見ながら個人による分析	(20 分)	
グループの話し合い	(30 分)	
発表	(15 分)	
・ まとめ	(10 分)	計 2 時間

(2) 準備する物

① 分析素材(テキスト)

- ・ 分析素材
- ・ 分析素材を上映するための機材、スクリーン

② ワークシート

- ・ ワークシート 6-1「構成の流れ記入シート」 88 頁
各参加者に 1 枚配布。
- ・ ワークシート 6-2「問いのシート」 89 頁
各参加者に 1 枚
- ・ グループ用のメモ用紙(A 3 用紙)
- ・ 模造紙とマジック

③ 説明資料 メディア・リテラシーの基本概念などを配布してもよい。

(3) 分析素材とワークシートの作り方

メディア・リテラシーにおいて分析素材は無尽蔵です。しかし、一人で分析素材(テキスト)を用意するのは非常に労力を要するので、できるだけ複数人で準備します。準備の段階から学びが始まります。

分析素材

①特定の出来事を一斉に報じる日のニュース番組を録画します。年中行事化している日の夕方、または夜のニュースを複数局録画します(たとえば、1月第2月曜日の「成人の日」、5月5日「こどもの日」、6月23日「沖縄慰霊の日」、8月6日「広島原爆投下の日」、8月9日「長崎原爆投下の日」、「総選挙翌日の日」など。できれば全局を対象に録画をし、その際には番組開始から終了までを録画します)。

年中行事化している番組を選択する理由は、その日のニュースでは「今日1日の動き」など凝縮して構成されている部分が放送される可能性が高いからです。

②録画した全番組を手分けして見て、「今日1日の動き」など各番組がその日の動きをまとめてレポートした部分があれば、それを複数選びます。分析素材の時間量は、長くても6～7分にします。

ワークシート

意識化するための具体的な手だてとして用意する、ワークシート6-1「構成の流れ記入シート」、ワークシート6-2「問いのシート」の作り方を説明します。

③ファシリテーターは自分で、ワークショップで分析素材にしようと思う番組の該当部分(「今日1日のドキュメント」など)を見ながら、時間の流れに沿って、映像と音声を、「構成の流れ記入シート」に書き出します。

ワークショップの際に使用する分析シートは、記入しやすくするためにセグメント(映像のひとつつながり)ごとに区切ります。初めての参加者は、映像と音声の両方を短時間に記入するのは難しいので、音声データを書き入れておきます。

④ファシリテーターは、分析素材を準備する過程で、分析対象の「今日1日の動き」に登場する人物、事物、それを撮るカメラワーク(カメラの位置や動き)、色調、テロップなど映像を構成する要素、ナレーション、インタビュー、BGMなど音声を構成する要素に気づくでしょう。これらの要素がすべて選択されて、どのようにして自然な流れに見えるように編集されているかに着目します。

5 学習の手順

テキストを見る前に

①ファシリテーターは、放送日時、放送局、選択した部分など分析対象について説明します。

ワークシート 6-1「構成の流れ記入シート」を参加者に配布し、記入シートはグループでの話し合いに使用するためのもので、自分用のメモであり、自分の書き方でよいこと、完璧に書き取れないのが当たり前であることを説明します。

見ながら

②次に分析対象(分析素材)を参加者に、通して見せます。

③2度目は、セグメント(映像のひとつながり)ごとに止めて、参加者が記入する時間をつくりながら見せます。

④書き取るのが難しいようであれば、3度目を見せます。あるいは、話し合いの途中で参加者から要望があれば見せます。ここまでが個人による分析作業です。

見た後で

⑤記入したワークシート 6-1「構成の流れ記入シート」を持ち寄って、4～5人のグループをつくります。ファシリテーターは、グループで簡単な自己紹介をした後に、進行係、記録係、発表者を決めます。グループ分けや役割分担も話し合いを活性化させます。

問い

⑥ファシリテーターは用意した問い(ワークシート 6-2「問いのシート」)を説明して、グループごとに話し合いに入ります。

参加者の人数にもよりますが、おおよそ 20 分くらいをめどに発表に入ることを、あらかじめ参加者に伝えておきます。

⑦テキストがどのように構成されているか、各自が記入したワークシート 6-1「構成の流れ記入シート」を見ながら、どのような人物(性別／年齢／人種・民族的背景／社会的地位など)や事物が、どのような状況や順序で登場しているのかを分析します。

⑧どのような映像技法(カメラワークや編集、色調、テロップの使い方など)や音声技法(ナレーションやBGM、効果音など)が使われているか。それらが映像にどのような意味をつけ加えているかを分析します。

学びを深めるために

学びを深めるために、さらに次の問いに沿って話し合うこともできます。

⑨テキストはなぜ、このように構成されているのでしょうか。このニュースをめぐる政治・経済・社会・文化等の背景も考慮に入れて考えます。

⑩このニュースでは取り上げられなかったことがあるか。あるとすれば、それはなぜ取り上げられないのかを考えます。

グループでの話し合いの共有

⑪一定時間話し合った後に、各グループで話し合った内容を全体に発表します。グループごとに着目する観点が異なり、そのことから参加者は自分たちが気づかなかった点に気づくことができるでしょう。オーディエンス(視聴者・読者)の多様性にも気づくことができるかもしれません。

研修時間に余裕がある場合は、グループごとに模造紙やマジックを使って発表準備をすると、より議論が深まります。

6 役割(ファシリテーターの留意点)

・テキストを自分たちで用意することを通して、自らが分析素材の構成性について気づくことができます。すでに用意された分析素材を使用する場合でも、必ず事前に「構成の流れ記入シート」を自分で記入していただく必要があります。

さらに、政治的・経済的・社会的・文化的な文脈について学ぶために、分析するニュースについて新聞記事やインターネットサイト、時間がある時は書籍などを通して背景となる情報や多面的な情報について学んでおきます。

ただし、ファシリテーターが学んだことについてワークショップが始まる際に多く語りすぎて、参加者の議論を「誘導」しないように注意します。

・自分なりに分析をしてワークショップに臨みますが、ワークショップではあくまでも参加者が主体的に学び、対話を通して新しい発見をするように進行します。その際に「正解を求めるのではない」こと、メディアの「意図」を読むのではなく、あくまでも自分自身が分析データにもとづいてどのように「読み解く」のかが、メディア・リテラシーの学びでは重要だということを示唆します。

・可能な限り「教える者」ではなく参加者から学ぶ姿勢をもって、話し合いを活性化させることが大切です。

・グループの話し合いの際は、質問に答えたり、話し合いが活発ではないグループを訪問して、話し合いの糸口をつくる手助けをします。

・グループからの発表の際は、印象を語るのではなく実証的に分析をしているかどうかに着目して、実証的に分析をしているグループの発言をクローズアップすることで、重要な点を示唆することができます。

・映像を文字化する理由は、メディアについて印象で話し合うのではなく実証的なデータにもとづいて、根拠をもって発言するためです。このような経験が日常生活において、「なぜ、そのように言えるのか」「誰が語っているのか」「それは誰の利益につながるのか」「もっと言えることはないのか」「取り上げられていない点は何か」というような、「問い」をもってメディアに接する態度につながっていきます。

・ファシリテーターにとってもっとも重要なことは、自分自身がメディア社会を生きる一員であり、メディアについて学ぶ必要性を自分の課題として捉えていることです。そのために、参考文献にある書籍を通して学ぶことやメディア・リテラシーのワークショップに参加して学びの経験を重ねることが、楽しく学ぶワークショップのファシリテーターになる近道です。

メディア・リテラシーワークショップでは、特に「アイスブレイク」を行う必要はないと思われます。なぜならば、個人の記入作業を終えるとグループに分かれて話し合うので、そこで自然に打ち解けることができる場合が多いからです。

7 今後に向けて～学びを深めるために

この教材では、主として基本概念の1と2について学ぶ組み立てを提案していますが、メディア・リテラシーの学びはここで終わるものではありません。鈴木みどり『Study guide メディア・リテラシージェンダー編』（リベルタ出版、2003）、『最新Study guide メディア・リテラシー入門編』（リベルタ出版、2013）を参照されると、より体系的な学び方を知ることができます。インターネットについて学ぶ際にもメディア・リテラシーの基本概念や分析モデルを使用して思考を深めることができます。

NPO法人FCTメディア・リテラシー研究所サイト

<http://www.mlpj.org/pb/index.shtml>

8 おわりに

メディア・リテラシーの学びはクリティカルなメディア分析を出発点としますが、それだけで終わるものではありません。「多様なコミュニケーション」を創りだすことが目的です。私たち一人ひとりが社会を生きる一員として社会に対して発言していく力の獲得をめざしています。

ワークシート 6-1 「構成の流れ記入シート」

メディアが構成する「現実」とは

テキスト： 放送日時__ 月__ 日 放送局 _____ 番組名 _____

	映像： 場所、登場人物の性別・年齢・人種民族的背景・外見容姿・行動／カメラワーク、テロップ(テ)、色調など	音声： ナレーションの性別・声のトーン、人物の発言内容、BGM・効果音・現場音など、インタビュー(イ)
	(例) スタジオ 女性アナウンサー(20 歳代後半) グレー色のスーツ スタジオ全景からアナウンサーの顔のアップに 式典会場遠景から会場内にアップ 男性記者(40 歳代) スーツではない	(例) いつもより低いトーンで 「本日、〇〇式が行われました」 ナレーション 男性 「〇〇式が行われたのは、…」 高めの声で 「集まったのは、…」

(c) N P O 法人 F C T メディア・リテラシー研究所

☆配布するシートは、例文を消し、書き込めるようにしてください。

☆ A 3 判に拡大してください。

ワークシート 6-2 「問いのシート」

メディアが構成する「現実」とは

●中心となる基本概念：

- ①メディアはすべて構成されている ②メディアは「現実」を構成する

○グループの問い

(1) テキストはどのように構成されているでしょうか。各自が記入した分析シートを用いて、以下の点から分析してみましょう。

- ① どのような人物(性別／年齢／人種・民族的背景／社会的地位など)や事物が、どのような状況や順序で登場するか。

--

- ② どのような映像技法(カメラワークや編集、テロップの使い方など)や音声技法(ナレーションやBGM、効果音等)が使われているか。それらが映像にどのような意味を付け加えているか。

--

(2) テキストはなぜ、このように構成されているのでしょうか。このテキストをめぐる政治・経済・社会・文化的背景も考慮に入れて考えてみましょう。

--

(3) このテキストでは取り上げられなかったことがあるでしょうか。あるとすれば、それはなぜ取り上げられないのか、考えてみましょう。

--

☆ A 3 判に拡大してください。

教材 7 「法教育の視点から ルールづくり」

この教材は「法教育」の教材です。法教育とは、アメリカの法教育法にいう Law-Related Education に由来する用語であって、法律専門家でない一般の人々が、法や司法制度、これらの基礎になっている価値を理解し、法的なものの考え方を身に付けるための教育です。

1 教材のねらい

法教育の教材の一つに「ルールづくり」があり、本教材はそれに該当する教材である。「ルールづくり」の特徴は、学習対象者となる人々が身近に感じられる紛争(トラブル)状況に対して、この紛争状況を解決するための解決策(ルール)づくりを体験的に行わせる点にある。解決策(ルール)を体験的に作成する過程においては、学習者がそれぞれ合理的な意見を持ち、学習者間の討論を経た合意形成に基づいて紛争を解決することが必要になるが、こうした体験的な作業は合理的意思決定や合意形成、そして建設的な批判の能力の育成にもつながると考えられる。

2 事例

本教材では、自治会で実際に発生した紛争(トラブル)を事例として取り上げる。具体的には、下記の憲法問題をその内容としている。

事例

「ある自治会の定期総会で、『赤い羽根共同募金』を会費の一部として徴収するために、自治会費増額(年 2,000 円)を決議した。すると、自治会員の一部の人たちが「思想及び良心の自由」(憲法 19 条)等を侵害しているので、徴収を止めて欲しいと主張した」

滋賀県甲賀市甲南町の「希望ヶ丘自治会」は、従来、赤い羽根共同募金や日本赤十字社への寄付金などを、各世帯を訪問して任意で集めてきた。このように、この寄付金はグループ長・組長らが訪問して集めていたが、約940世帯ある上に高齢者も多く、各家を1軒ずつ回って徴収するのは負担が大きいこと、しかも協力を得られなかったり留守だったりするなどにより負担が重くなったため、グループ長になるのを避けようと休会する人もいた。そこで、集金にあたるグループ長・組長らの負担を解消しようと2006年3月の定期総会で、年会費6,000円の自治会費に募金や寄付金など2,000円分を上乗せ(増額)して徴収することを定期総会で賛成多数で決議した。

2006年3月総会議決

6,000円+2,000円=8,000円(上乗せ議決)(強行徴収)

その決議では、増額分の会費は、全額、地元の小中学校の教育後援会、赤い羽根共同募金会、緑化推進委員会、社会福祉協議会、日本赤十字社及び滋賀県共同募金会への募金や寄付金に充てる、としていた。

これに対して、原告らは「寄付するかどうかは個人の自由」と一律徴収に反対し、翌月に「本件決議は思想・良心の自由等の侵害を理由として決議の無効確認等を求めて訴訟を起こした。

3 学習のすすめ方

(1)準備する物

①資料

- ・資料 7-1「実際の判決」99 頁
- ・資料 7-2「補足説明」 100 頁

②ワークシート

- ・ワークシート 7-1「自治会で起こったトラブル・あなたの考えは？」102 頁
- ・ワークシート 7-2「法的な観点から考えてみよう！」103 頁
- ・ワークシート 7-3「自治会で起こったトラブル・・・

あなたたちの解決策を提案しよう！」105 頁

(2) 5段階

- ①まず、その問題状況を理解すること
- ②この紛争の当事者の言い分を確認し、その言い分の多様性を理解すること
- ③この紛争を法的な観点を踏まえ、その状況を分析すること
- ④この紛争状況を解決するためのより望ましい解決策を考えること
- ⑤グループで議論し、合意形成することで、この紛争状況の解決策を作り上げること

上記の段階を踏むことで、合理的意思決定や合意形成能力などの育成につながると考えられる。法的な素養をもった市民の育成を可能にする法教育教材は、シティズンシップの育成にも直結する。21 世紀市民社会形成の基盤になる教育内容・教材なのである。

4 学習の手順

グループディスカッションの進め方と学習の展開のあり方について、①から順に⑤まで説明します。進行は適宜、ファシリテーターが進めます。

①問題状況の提示・理解

自治会で発生した紛争(トラブル)の内容を理解することが目的で、ワークシート 7-1 を使います。

学習活動

ア ある自治会で起こった紛争(トラブル)を提示する。

問題状況を、学習者の誰かが音読する。

ある自治会の定期総会で、「赤い羽根共同募金」を会費の一部として徴収するために、自治会費増額(年 2,000 円)を決議した。

すると、自治会員の一部の人たちが、「思想及び良心の自由」(憲法 19 条)等を侵害しているので、徴収を止めて欲しいと主張した。

イ その問題状況を理解する。

「憲法 19 条」「自治会」「赤い羽根共同募金」などについて、資料 7-2 を使って簡単に説明する。

ウ このような主張があった場合、あなた自身はどう考えるのか。

→ 回答例

「自分の権利を主張しすぎている」

「憲法上の権利は保障されるべきだ」他

②問題状況の理解に関する多様な主張の理解

各住民の立場の主張・根拠を理解することが目標で、ワークシート 7-1 を使います。

学習活動

自治会費徴収にともなう住民の主張・根拠を提示する。

紛争「当事者」4 人の「言い分」を、参加者が役割分担して音読する。

自治会長の言い分

「定期総会で決定したことだから徴収しても良いではないか。ちゃんと定期総会で話し合って多数決で決めているという手続きを踏んでいるじゃないか」
根拠は、手続き的正義。

住民Aの言い分

「グループ長は毎回集金に苦勞している。このままでは誰もグループ長をやる人がいなくなる。自治会組織を維持するためにも必要なのではないか」
根拠は、「自分たちのことは自分たちで決める」ということは大切であるという、自治の考え方。

住民Bの言い分

「私は募金ではなく、自らの身体で貢献したいと思っている。例えば、地震があった地域には、必ずボランティ

アとして参加している。自治会費として募金を徴収されるのは私の信条に反する」

根拠は、「思想・信条の自由」は大切にされるべきである(憲法19条)。

住民Cの言い分

「生活が苦しく、年間2,000円も増額されては困る」

②の留意点

紛争の当事者たちの「言い分」を確認する。

- ・ 学習テーマ「自治会費徴収問題の解決案を考えよう」を再確認する。
- ・ 資料を読み、各住民の立場を知ること、何らかの解決策を見いだす必要性を感じさせる。
- ・ それぞれの「当事者」の「言い分」には根拠があり、根拠を明確にした「言い分」であることを確認する。それぞれが「妥当な言い分」であることを理解する。

③法的な観点の考慮

段階を追って2つの観点、「個人の権利侵害の重要性」と「団体の自主性・自律性」から自分の意見を整理できることが目標で、ワークシート7-2を使います。

学習活動

ア 集団の中で物事を決める場合、「みんなで決めて良いこと」と「みんなで決めてはいけないこと」がある。例えば「決めてはいけないこと」はどんなことかを聞く。

→ 回答例

「人をいじめること」

「個人の人権を侵害するようなこと」

イ 「特定の政党に寄付するために自治会費を増額する」ことは「みんなで決めてよい」のか。それはなぜかを聞く。

→ 回答例

「特定の政党を応援することはひとそれぞれ違うし、自治会に所属する人たちはみんな考え方も違うのだから、増額した自治会費を特定の政党に寄付することは問題であるので『みんなで決めてはいけない』」、「みんなが一緒に支持するのだったら問題ないので『みんなで決めて良い』」

ウ 「自治会の運営費が不足したので増額する」ことは「みんなで決めて良い」のか。それはなぜかを聞く。

→ 回答例

「運営費がないと自治会がなりたたなくなってしまうので、自治ができない。だから『みんなで決めて良い』」他

エ 「赤い羽根共同募金」のために自治会費を増額することは「みんなで決めて良いのか」、「みんなで決めて良くない」のか。どちらの立場に立つかを聞く。
そして、それはなぜかを聞く。

アの留意点

法的な観点を踏みつつ、その状況を理解する。

「個人の権利侵害」について考える場面である。

「個人の権利侵害」に関わる内容がいくつか事例として出されれば良い。

「(一人一人の問題なので)みんなで決めてはいけないのか」「(みんなの問題なので)みんなで決めて良いのか」といった問い立てをすることで、段階を追って2つの観点に迫っていく。

イの留意点

法的な観点を踏みつつ、その状況を理解する。

「個人の権利侵害」について考える場面である。

- ・同じ自治会でも様々な政党を支持する会員がいるので、「一人一人の問題」になると考えるならば「みんなで決めてはいけない」となるし、同じ自治会で同じ政党を全ての会員が支持しているのなら「みんなの問題」になると考える場合が出てきて「みんなで決めて良い」となるかもしれない。
- ・いずれにしてもどのような自治会構成なのかを考えるポイントになる。

ウの留意点

法的な観点を踏みつつ、その状況を理解する。

「団体の自主性・自律性」について考える場面である。

- ・同じ自治会を構成している会員であるから(「みんなの問題」として捉えている)、運営費が不足したなら会費を増額すべきと考えるなら「みんなで決めて良い」となる。

エの留意点

法的な観点を踏みつつ、その状況を理解する。

「個人の権利侵害」「団体の自主性・自律性」の両面について考える場面である。

- ・「募金」をすることは「一人一人の問題」なのか「みんなの問題」なのか、「募金」をすることをどう捉えるのかによって、その「主張」は異なってくる。「募金」は「一人一人の問題」だと捉えるならば「みんなで決めては良くない」となるし、「みんなの問題」だと捉えるならば「みんなで決めて良い」となるだろう。学習者それぞれが考える理由は実に多様になる。それぞれが考えた理由が「妥当」なものと判断できればそれで問題はない。

④問題状況に対するより望ましい主張の構成

問題の解決策について、一人一人が「妥当な」理由・根拠の下で主張を構成できることが目標で、ワークシート 7-3 を使います。

学習活動

個人で解決案を考える。

解決策がなぜ適切なかの理由や根拠を述べる。

→ 回答例

「住民Bの主張は権利侵害にならないから、また手続きも問題ないので、このまま2,000 円増額し、増額分は赤い羽根共同募金に充てる」

→ 回答例

「住民Bの主張にも配慮し、2,000 円の増額は取り消し、負担の重い募金を集める人に何かしらの優遇措置を行う」

④の留意点

紛争状況を解決するためのより望ましい解決策を作り上げる。

- ・「一人一人の問題」であるとする学習者は、「募金を『強制徴収』することは『権利侵害』である」と総括するので、「募金を集めること自体」を止めるべき、という意見が出てくるかもしれない。

ただ、それだと「問題は解決されない」。

「募金を集める」こと自体を肯定的に考えつつ、では、どのような方法で「募金を集める」のかについて考案するべきである。

学習者の考え方で様々な解決策が出される可能性がある場面であり、「間違っただけ」などないことを、ファシリテーターは学習者に強調すべきである。「法教育」には「答え」はなく、解決策と解決策に関わる理由、根拠に論理的・合理的妥当性があれば問題はない。

資料 7-1 「実際の判決」

第 1 審判決(大津地方裁判所 平成 18 年 11 月 27 日 判例集未掲載)

本件募金対象団体が政治的思想や宗教に関わるものではなく、寄付の名義は原告らではなく「希望ヶ丘自治会」であることから構成員の思想信条に与える影響は直接かつ具体的なものではなく、また負担金額も過大ではない、として本件決議が公序良俗に反しないとしていた。

第 2 審判決(大阪高等裁判所 平成 19 年 8 月 24 日判決)

募金及び寄付金は、その性格上、「すべて任意に行われるべきものであり」グループ長や組長集金の負担の解消を理由に、これを会費化して一律に協力を求めようとする事自体、「希望ヶ丘自治会」の性格からして、「様々な価値観を有する会員が存在することが予想されるのに、これを無視するものである上、募金及び寄付金の趣旨にも反する」としました。そして、募金及び寄付金に応じるかどうかは、「各人の属性、社会的・経済的状況等を踏まえた思想、信条に大きく左右されるものであり」、会員の任意の態度、決定を十分に尊重すべきだとし、「その支払を事実上強制するような場合には、思想、信条の自由の侵害の問題が生じ得る」とした。なお、本自治会の場合、会費を納付しなければ脱会を余儀なくされる恐れがあったが、自治会未加入者はごみステーションを利用できないなどの不利益を受け、脱退の自由を事実上制限されていた。したがって、本件募金の徴収は、「会員の生活上不可欠な存在」である「希望ヶ丘自治会」により、事実上強制されるものであり、「社会的に許容される限度を超える」と判示して、1 審判決を取り消していた(『判例セレクト 2007』有斐閣)。

最高裁判決(最高裁判所第 1 小法廷 平成 20 年 4 月 3 日判決)

自治会側の上告を棄却する決定をしました。これで「徴収は思想・信条の自由(憲法 19 条)を侵害する」として決議を無効と認め、反対住民側の逆転勝訴の二審大阪高裁判決が確定しました。

資料 7-2 「補足説明」

憲法 19 条

「思想と良心の自由は絶対に侵してはならない」と規定しており、思想と良心とは、内心におけるものの見方ないし考え方(世界観・人生観・主義・信条など)を指している。判例では、思想の自由は人が内心に抱く考え方の自由が外部の強制・圧迫・差別待遇により妨げられないこと、人の精神活動の自由が外部の力から保証されている状態を指す(星野安三郎他監修『口語六法全書憲法』自由国民社、1998 年)。

自治会(町内会)

自治会(町内会)には様々な形態があるが、共通して 5 つの条件を持つ組織とされる。

- ①一定の地域区画を持ち、その区画が相互に重なり合わない、
- ②世帯を単位として構成される、
- ③原則として全世帯加入の考え方にたつ、
- ④地域の諸課題に関与する、
- ⑤それらの結果として行政や外部の第三者に対して、地域を代表する組織になるのである。いずれにしても④に対処するために、一定の地域区画の中の世帯が協働して活動を行う組織と位置づけることが出来るだろう(中田実『地域分権時代の町内会・自治会』自治体研究社、2007 年)。

赤い羽根共同募金

1947 年に市民による主体的な取り組みから始まった運動。当初は戦後復興の一助として、戦争の打撃を受けた福祉施設を中心に資金支援する活動としての機能を果たしてきた。その後、社会福祉事業の推進のために活用されて、60 年以上たった今、社会が大きく変化する中で、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を支援する仕組みとして、募金が実施されている。「赤い羽根共同募金」のホームページには、寄付金の使い道も報告されているので、学習する際にはぜひ参照してください。 <http://www.akaihane.or.jp/>

個人の権利侵害の重要性

一般的には、個人の権利侵害が「許容範囲」なのか否かについて考える視点になり、本事例の場合、憲法 19 条に違反していると考えなのか考えないのか、について考察する視点。本学習では、「(一人一人の問題なので)みんなで決めてはいけない」「(みんなの問題なので)みんなで決めて良い」という問い立てに考察することになる。

団体の自主性・自律性

一般的には、団体がどこまでの内容を決めることが社会正義に適っているのか否かについて考える視点になり、本事例の場合、赤い羽根共同募金の金額分を自治会費に上乗せすることを自治会として決めて良いのか否かについて考察することになる。本学習では、「(みんなの問題なので)みんなで決めて良い」のか否かという問い立てで考察することになる。なお、本事例では、「個人の権利侵害の重要性」と「団体の自主性・自律性」を関連して考察することとなる。

ワークシート 7-1 「自治会で起こったトラブル・・・あなたの考えは？」

氏名 _____

ある自治会の定期総会にて・・・

「赤い羽根共同募金」を会費の一部として徴収するために、自治会費増額(年 2,000 円)の決議をしました。そうすると、自治会員の一部の人たちが「思想及び良心の自由」(憲法 19 条)等を侵害しているので、徴収を止めて欲しいと主張しました。

○この主張があった場合、あなた自身はどう考えますか？

--

◇自治会費徴収にともなう住民の主張とその根拠はどうなっているだろうか？

自治会長	(例)定期総会で決定したことだから徴収しても良いではないか。ちゃんと定期総会で話し合っ て多数決で決めるという手続きを踏んでいるじゃないか。	住民 A	(例)グループ長は毎回集金に苦労している。このままでは誰もグループ長をやる人がいなくなるわ。自治会組織を維持するためにも必要じゃないのかしら。
根拠	手続き的正義	根拠	「自分たちのことは自分たちで決める」ということは大切である；自治の考え方
住民 B	(例)私は募金ではなく、自らの身体で貢献したいと思っている。例えば、地震があった地域には必ずボランティアとして参加している。自治会費として募金を徴収されるのは私の信条に反する。	住民 C	(例)生活に苦しく年間 2,000 円も増額されては困るわ。
根拠	「思想・信条の自由」は大切にされるべきである；憲法 19 条	根拠	_____

●今回の学習テーマ

--

ワークシート 7-2 「法的な観点から問題を考えてみよう！」

氏名 _____

○解決を考える際の法的な観点として・・・

1)個人の権利侵害の重要性・・・各個人の権利が侵害されているか否か

2)団体の自主性、自律性・・・みんなで決めてよいことか否か

(1)集団の中で物事を決める場合、「みんなで決めて良いこと」と「みんなで決めてはいけないこと」がある。例えば「決めてはいけないこと」はどんなことですか？

①例えば「特定の政党に寄付するために自治会費を増額する」ことは「みんなで決めてよい」のですか？それはなぜですか？

②例えば「自治会の運営費が不足したので増額する」ことは「みんなで決めて良い」のですか？それはなぜですか？

(2)「赤い羽根共同募金」のために自治会費を増額することは「みんなで決めて良い」
のですか？「みんなで決めてはいけない」のですか？

メモ欄

--

ワークシート 7-3 「自治会で起こったトラブル・・・あなたたちの解決策を提案しよう！」

氏名 _____

○あなたの解決案を考えよう！

解決策がなぜ適切なのか理由、根拠を示しながら提案しよう！

●あなたたちの解決案を考えよう！

グループで各自の解決策を出し合い、一つの解決案を提案しよう！

★他のグループの発表を聞いて、感じたことをまとめてみよう！

メモ欄

--

参加型学習教材の利用にあたって

(1)主権者教育の高まりと参加型学習

18歳選挙権の実施によって、主権者教育への関心が高まっています。特に、学校教育においては、高等学校を中心に各地で様々な取組みが展開されていますが、その特徴として、公職選挙法や選挙の具体的な仕組みに関する政治的知識の教授だけでなく、選挙管理委員会、明るい選挙推進協議会、教育委員会、大学等と連携を図りながら、模擬選挙（候補者や政党の政策分析と模擬投票）による実践的な学習活動や、現実の政治的事象（消費税の引き上げ、軽減税率の導入、被選挙権年齢の引下げ等）についての話し合い活動など、参加型学習が重視されている点があげられます。

このことは、主権者教育が、政治に対する体系的な知識を学びつつ、それだけで終わるのではなくて、政治や社会の課題に対する関心を高め、課題解決に向けた判断能力や意思決定能力を養い、主体的に社会へ参加していくところまで視野に入れて行われることによって、人々が、主権者として必要な政治的リテラシーを身につけて、自立した主権者となっていくことが期待されていることを意味しています。

(2)生涯学習としての主権者教育の重要性

主権者教育の中心は、近い将来の有権者である子どもに対して、学校教育の特別活動、社会科・公民科、総合的な学習等の時間を使用して行なわれているものですが、それらの教育を一過性のものとせず、生涯にわたって、人々が、政治や社会への関心を持ち続けて社会へ参加していくためには、学校卒業後も、若者から高齢者にいたるまで主権者教育が行われていく必要があります。

生涯学習として主権者教育が重要である理由として、主に次の3点があげられます。第1に、人生の各ライフステージで直面する課題を契機として、政治や社会の課題が各人にとってより身近なテーマとなるからです。学校卒業と就職は、若者が労働政策や労働問題に関心を持つきっかけとなるでしょうし、出産や育児は、人々が子育て施策や環境問題に関心を持つきっかけとなるでしょうし、年齢を重ねれば、年金、医療制度、介護制度への関心もさらに高まっていきます。各人の日々の暮らしとも関わる身近なテーマについて学びながら、主権者としての責任を果たしていくことが求められます。

第2に、選挙権をはじめとした政治参加や、行政への市民参加に関わる場面は、成人になると多くなるという現実があるからです。したがって、政治や社会をとりまく環境も変容していく中で、子どもの頃に学校で習得した知識や思考をバージョンアップさせた上で、政治参加、市民参加していくことが求められます。

第3に、政治に対する固定観念や職場・地域における様々なしがらみが、成人の投票行動にも影響を及ぼしている可能性を無視できないからです。したがって、自由な自立した主権者として、かたくなな発想や意識を柔軟に変容させていくきっかけが必要となります。

生涯学習としての主権者教育は、選挙管理委員会や明るい選挙推進協議会、公民館・生涯学習センター等の公的な社会教育・生涯学習機関、高等教育機関である大学・短大等が連携を図りながら、各地域で積極的に実施されていくことが望まれます。

(3)相互の学び合いによる参加型学習

当然のことながら、学校卒業後における主権者教育も参加型学習を重視して行っていく必要があります。そして、参加型学習において特に重要となるのが、学習者が積極的に他の学習者の考え方や価値観や経験から学び、異なる意見や発想を相互に発信するというような、参加者同士の相互の学び合いです。民主主義にとって議論や論争が重要な要素であることをふまえれば、意見対立のあり得るテーマも含めて、主権者教育を相互の学び合いを中心にすえて進めていくことは効果的といえるでしょう。

成人教育学(アンドラゴジー)でも言われているように、学習者としての成人は、豊富な経験をもつ反面、経験に縛られた発想が、決めつけや思い込みや固定観念となって、それらが時として学習の障壁となることもあり、そうした意味でも、他者と共に学ぶことは重要といえます。こうした相互の学び合いによる参加型学習を展開していく上では、様々なアクティビティを組み入れながら、参加者同士の交流やコミュニケーションを図っていくことも大切です。ただし、技術的・方法的なところばかりにこだわりすぎると、参加者同士の交流は促されたものの、肝心の政治的リテラシーが身につくような学習の場にならなかったという結果に陥る可能性もあるので、そのバランスも大切となってきます。

教材提供者等の紹介

原田 謙介(はらだ けんすけ)さん・・・教材 1

- ・ NPO法人YouthCreate代表
- ・ 岡山大学非常勤講師
- ・ 総務省と文部科学省による副教材『私たちが拓く日本の未来』の作成協力者
- ・ 学生団体ivote初代代表

吉村 功太郎(よしむら こうたろう)さん・・・教材 2

- ・ 宮崎大学大学院教育学研究科教授(社会科教育学)

渡部 一清(わたなべ かずきよ)さん・・・教材 3

- ・ 青森県明るい選挙推進協議会常任委員、青森市明るい選挙推進協議会会長
- ・ 元青森県公立小学校校長、元社会教育主事
- ・ 元青森中央短期大学非常勤講師、全国生涯学習まちづくり協会まちづくりコーディネーター

杉浦 真理(すぎうら しんり)さん・・・教材 4

- ・ 立命館宇治中学校高等学校教諭(京都府宇治市)
- ・ 日本シティズンシップ教育フォーラム運営委員
- ・ 全国民主主義教育研究会機関紙編集長
- ・ 著書に『シティズンシップ教育のすすめ』(法律文化社)など
- ・ 総務省と文部科学省による副教材『私たちが拓く日本の未来』の作成協力者

桑原 敏典(くわばら としのり)さん・・・教材 5

- ・ 岡山大学大学院教育学研究科教授(社会科教育学)
- ・ 著書に『高校生のための主権者教育実践ハンドブック』など
- ・ 総務省と文部科学省による副教材『私たちが拓く日本の未来』の作成協力者

西村 寿子(にしむら としこ)さん・・・教材 6

・ NPO法人FCTメディア・リテラシー研究所所長

同研究所は 1977 年に創設され、メディア分析調査やメディア政策への提言、セミナー、市民講座の企画などに取り組んでいます。

橋本 康弘(はしもと やすひろ)さん・・・教材 7

・ 福井大学教育学部教授(社会科教育学)

・ 元文部科学省教科調査官(併任)

・ 福井県明るい選挙推進協議会委員

・ 著書に『教室が白熱する身近な問題の法学習 15 選』など

上原 直人(うえはら なおと)さん・・・参加型学習教材を利用するにあたって

・ 名古屋工業大学大学院工学研究科-工学教育総合センター准教授

・ 日本公民館学会理事

